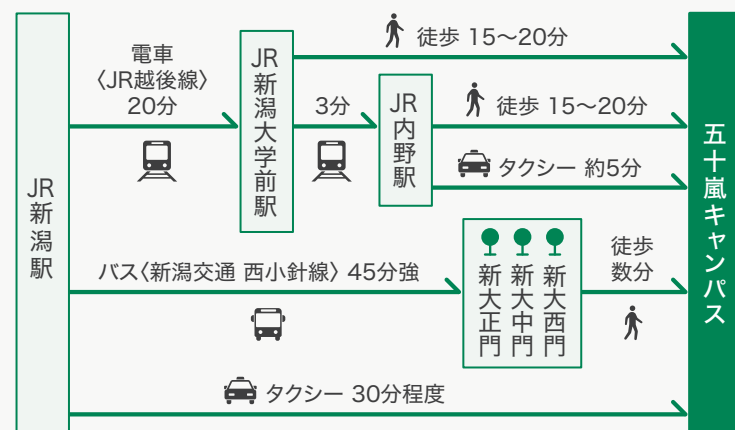


交通アクセス



Access Information

- 五十嵐キャンパスの最寄駅はJR越後線「新潟大学前」駅あるいは「内野」駅です。
- どちらの最寄駅からも、キャンパスまで徒歩15～20分かかります。駅から大学へは上り坂が続きます。
- 最寄駅からタクシーを利用される場合には、駅前にタクシー待機場がある「内野」駅での下車をお勧めします。
- 人文学部(総合教育研究棟)最寄りのバス停は「新大西門」です。

新潟大学五十嵐キャンパス

自然環境に恵まれた新潟大学五十嵐キャンパスでは、勉強、スポーツ、レジャーなど、充実した学生生活をおくることができます。



新潟大学正門



人文社会科学系棟
(法学部、経済学部)
人文学部の授業は、こちらの建物でも行われています。



新潟大学附属図書館(中央図書館)

様々な分野の資料を豊富に所蔵しているだけでなく、多目的で使える学習スペースを備える図書館です。また、大学院生が学習相談に乗ってくれる「図書館学習サポーター」など様々なサービスも提供し、日々の勉強や研究活動を支援しています。



詳細はこちら

総合教育研究棟(人文学部、創生学部)

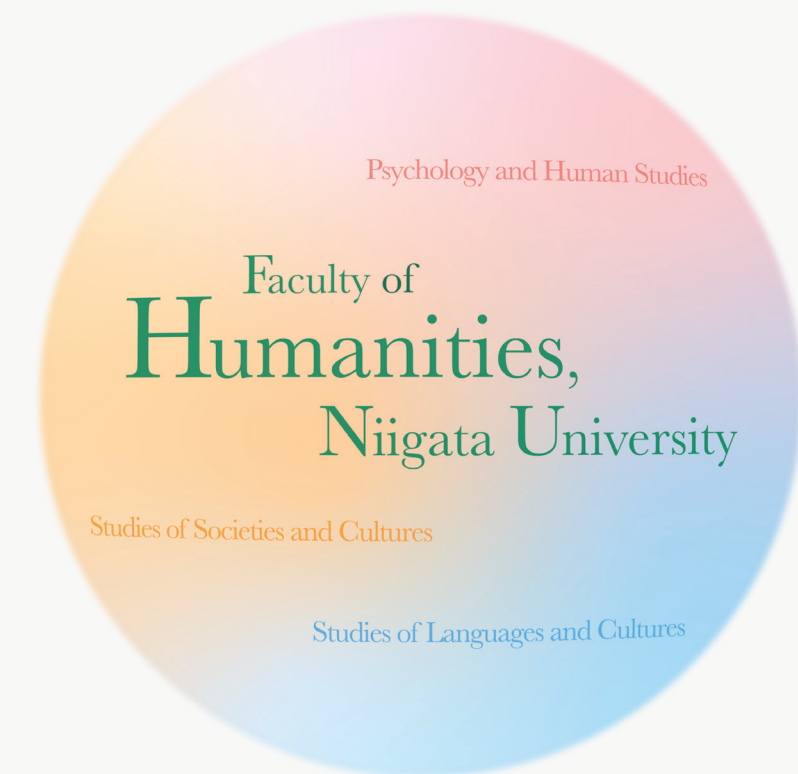
充実した教育スペースのほか、教員研究室、資料室などが揃った人文学部の教育・研究の拠点です。学生生活に必要な各種手続きを行う事務室もこちらにあります。

そのほか、五十嵐キャンパスには、教育学部、工学部、農学部、理学部など他学部・大学院の施設や各種スポーツ場とともに、学生寮や大学生協、学生食堂、コンビニエンスストアなど、学生生活に必要な福利厚生施設が揃っています。

Campus Guide 2027

新潟大学 人文学部

心理・人間学 社会文化学 言語文化学



人を知り 文化を学び 未来を拓く



2026年7月31日発行

発行／新潟大学人文学部 編集／人文学部広報・情報委員会

〒950-2181 新潟県新潟市西区五十嵐2の町8050番地 TEL 025-262-6281

(新潟大学人文学部学務係)

<https://www.human.niigata-u.ac.jp/>

印刷／株式会社 ハイニングラフ 〒950-2022 新潟県新潟市西区小針1丁目11番8号 TEL 025-233-0321



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



人を知り 文化を学び 未来を拓く

3学位プログラム28分野に広がる多彩な学び

人文学部の教育理念

新潟大学人文学部は、人間・社会・文化を対象として、多角的・総合的な視野から教育と研究を行うことを理念としています。3学位プログラム28分野と幅広く人文学の諸分野について学修できる良質な環境を整えることにより、次の4点に集約される基本的能力・態度・姿勢を有する人材の養成を目標にしています。

- 人間、社会、文化に関わる諸問題に多角的・分析的にアプローチを試み、主体的に取り組むことができる。
- 社会のなりたちとその歴史を深く理解し、人類が生み出した文化に敬意を持ち、その価値を後世に正確に伝えることができる。
- 身近な課題の探究を通して、地域社会に貢献する。
- 異文化に対する理解を深め、調和ある国際社会の形成に貢献する。

Contents

- | | | | |
|----|---------------------------------------|----|--------------------|
| 01 | 人文学部の教育理念 | 25 | 国際交流・大学間交流 / 留学生の声 |
| 02 | 学部長からのメッセージ
入試情報 / 奨学金および学費・経済支援制度 | 27 | 人文学部で取得できる資格 |
| 03 | 人文学部の教育 | 29 | 就職データ / 卒業生の声 |
| 05 | 先輩に聞いてみた！人文学部の魅力に迫る | | |
| 07 | 私の時間割を教えます！ | | |
| 09 | 心理・人間学プログラム | | |
| 13 | 社会文化学プログラム | | |
| 19 | 言語文化学プログラム | | |

学部長からのメッセージ

人文学から広がる世界——迷いながら少しずつ

今、このページを開いたみなさん。「人文学部」と聞いてどのようなイメージを思い浮かべるでしょうか。「文系で、国語や英語、歴史・地理をもっと深く学ぶところ？」——もちろん、それも間違いではありません。しかし、大学での人文学の学びは、高校までの教科の枠を大きく超えて広がっています。

では、そもそも人文学部で学ぶ「人文学」とはどのような学問なのでしょう。人文学とは、「人間とは何か」、そして「人間の心や、人間のつくりだしてきた社会、文化はどのようなものなのか」という根本的な問いに向きあう学問の大きな領域です。人文学の中には例えば心理学・人間学・社会学・民俗学・歴史学・メディア論・文学・言語学などなど、多様なアプローチがあります。詳しくはこの後のページを見てもらうとして、こうした様々な人文学の分野を通して、みなさんは今まで知らなかった新しい世界に触れ、自分自身の見方を大きく広げることができるでしょう。

とはいえ、数ある選択肢の中から自分が何を学びたいのか、大学で何をしたいのか、決めるのは簡単なことではありません。自分に合っているのか、将来はどんな職業に就けるのか、悩む人も多いでしょう。ですが、決して焦る必要はありません。今はまだ漠然としたものでかまいません。迷いながら少しずつ、探していけばよいのです。

人文学部では、最初は様々な分野に触れるところから始まり、その後、関心に応じて分野を選び、深く学んでいきます。新しい外国語を学んだり、文献や作品を深く読みこんだり、フィールドに出て調査したり、思いがけない発見やいろんな体験が待っています。まずは多様な世界を知ってください。そうした様々な体験の中で、みなさんは新しい可能性と出会うことでしょう。人文学から広がる新しい世界へ一歩を踏み出してみませんか。



新潟大学 人文学部長

山内 民博

YAMAUCHI Tamihiko

人文学部に入学を希望するみなさんへ

人文学部では、しっかりとした基礎学力と旺盛な学習意欲をもつ人、豊かな感性と強い関心をもって学習に取り組む人、そして人間・社会・文化に関わる諸問題に関心のある人の入学を望んでいます。

入試情報

入学希望者に対しては、下記の選抜を行ないます。

一般選抜	前期日程	定員 140人
	後期日程	定員 40人
学校推薦型選抜		定員 30人
計		定員 210人

そのほか、人文学部には次の特別選抜があります。

- 帰国生徒特別選抜
 - 社会人特別選抜
 - 帰国生徒特別選抜（10月入学）
 - 私費外国人留学生特別選抜
- いずれも若干人
- 3年次編入学試験（定員6人）

- 入試情報の詳細は、令和9年度入学者選抜要項および学生募集要項を参照してください。
- 入試にかかる最新の情報や各選抜区分の募集要項は、「受験生特設サイト」に掲載しています。

受験生
特設サイト



奨学金および学費・経済支援制度

新潟大学は、国が実施する「高等教育の修学支援新制度」の対象機関に認定されています。一定の基準を満たす方は、給付型奨学金の支給と授業料等の免除を併せて受けることができます。詳細は日本学生支援機構のWebサイトをご確認ください。

また、本学独自の制度として、大学進学を諦めることのないよう経済的な支援を行う「輝け未来!! 新潟大学入学応援奨学金」や、一時的な学資の補助を行う「修学支援貸与金」等、各種支援制度をご用意しています。必要な方は本学Webサイトをご確認のうえ、担当窓口へお申し出ください。

新潟大学Webサイト
学生生活・就職 > 学費・経済支援制度 > 奨学金



上記以外にも、人文学部、法学部および経済科学部に在籍している学生に対して無利子で奨学金を貸与する制度もあります。

人文学部の教育

Education in the Faculty of Humanities

人文学部では、人間・社会・文化を対象とする3プログラム28分野を、体系的かつ横断的に学ぶことが可能です。学生の皆さんが専門的な内容を深く学べると同時に、これからの社会で活躍するための不可欠な技能を身につけられるように、多彩な授業内容が用意されています。

Curriculum

学 年	1年				2年				3年				4年			
セメスター	1		2		3		4		5		6		7		8	
ターム	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
教養教育 ↑ ↓ 専門教育	外国語(必修)				外国語(選択)				キャリア科目				各種選択科目(新潟大学個性化科目、人文系科目、社会系科目、自然系科目など)			
	人文初年次演習				表現プロジェクト演習											
	入門講義				基礎演習				発展演習							
					基礎講義・実習・研究法				発展講義							

学位プログラム決定

卒業論文提出

新潟大学では2学期4ターム制の導入により学事暦を柔軟化し、海外留学や長期学外学修等との両立を実現しています。

1 年 次	2 年 次	3・4 年 次
外国語を集中的に学びます。人文初年次演習では、25名以下の少人数編成により大学での学習に必要なスキルを身につけます。入門講義では、人文学部の各専門分野への導入を行います。また、人文諸科学の最先端を網羅する人文系フロンティア、短期集中英語プログラムiStepなど、学内外の集中的な学修プログラム等への参加が可能です。	1年次末の希望調査にもとづいて、いずれかの学位プログラムと専門分野に所属します。基礎講義・実習、基礎演習を通して、自分の専門分野を軸に、各学位プログラムの基本的な読解技術・分析能力を養います。2年次以降、キャリア科目や表現プロジェクト演習の履修が可能になります。	専門性の高い最先端の内容を、発展講義・実習を通して理解します。発展演習では、分野ごとに原典・原資料の解説、資料・データの分析・解析、プレゼンテーションや討論を通して、自らの研究テーマを深めます。人文学部4年間の成果を、卒業論文として結実させます。

リアルな学生生活を
のぞいてみよう!

▶ 5～8ページ



人文学部の学位プログラム

2年次以降では、次ページ以降で詳しく紹介する3つの学位プログラムのいずれかに登録して学修を進めます。

- 心理・人間学プログラム** ▶ 9～12ページ
心のしくみを実証的に解き明かす心理学と、人間の精神が生み出してきた思想的文献を読み解く人間学を取り扱います。
- 社会文化学プログラム** ▶ 13～18ページ
世界の歴史的・文化的・社会的背景を、様々な調査を通して明らかにするプログラムです。
- 言語文化学プログラム** ▶ 19～24ページ
文化としての言語を探究していき、高い言語運用能力、鋭い言語感覚、そして豊かな表現能力を身につけるプログラムです。

※新潟大学全学の特徴である学位プログラムとメジャー・マイナー制度の関係については、大学公式サイトのほか、本案内の8ページをご覧ください。

カリキュラムのポイント

Key Points of the Curriculum

広く深く学ぶ、人文学の冒険へ

幅広い教養と確かな専門知識を涵養し、人文的实践知を育むカリキュラムを用意しています。3つの学位プログラムの下に多様な専門分野を用意し、それぞれの分野について体系的な学習が行えるよう工夫するとともに、先端的な内容を紹介する講義を充実させています。1学科制であることを活かし、人文科学の諸分野を横断的に履修することも可能です。

対話で磨く、課題解決力

「ゼミ」「ゼミナール」とも呼ばれる演習科目は、教員と学生、学生同士の対話、学生による発表を重視する授業です。一人一人の学生が力を発揮できるよう丁寧に配慮し、きめ細やかな指導を行う少人数制の演習授業を4年一貫で実施し、課題を探索し解決する能力を含む「人間力」の育成に力を注いでいます。

語学力を育てる、4年間の挑戦

英語以外の外国語を学ぶ初修外国語科目では、日本人教員とネイティブ教員による週3～4コマのインテンシブ授業により、「読む・書く・聞く・話す」の4技能のバランスがとれた、総合的な運用能力を1年間で涵養します。英語・初修外国語ともに、選択科目を履修し、4年間かけて高度な語学力を身につけることも可能です。古典語科目も開講しています。

地域とつながる、創造と実践の学び

学生の主体的な取り組みと実践によるアクティブ・ラーニングが大きな学習成果を上げています。たとえば表現プロジェクト演習では、学生が協同して創造的活動を行い、その成果を地域社会へ発信します。文学や映像作品の製作・発表、地域の民俗芸能への参加など、これまでの人文学部の枠組みを超える先駆的取り組みは、国内外から高く評価されています。

はじめの一步から卒業後まで、ていねいに

学年に応じたきめ細かい教育体制により、豊かな学びを実現します。1年次には人文入門や初年次演習など、大学での高度な学修へのスムーズな移行を助ける科目が用意されています。キャリア科目では、様々な業界の現場で活躍する方々から直に話を聴き、卒業後の人生設計や就職試験について具体的に考えることができます。

先輩に聞いてみた！



「英語」「心理」「考古学」など、人文学部ならではの多様な分野を専攻する3人の先輩たちに集ってもらいました。学内学の枠を超えて、留学に行ったり、遺跡を発掘したり、実験データから心を見つめたり。人文学部でしかできない能動的な学びと、将来の夢を叶えるためのヒントが詰まった座談会。人文学部のリアルな魅力をのぞいてみよう！

人文学部の魅力に迫る

質問に答えてくれた先輩（写真左から）

心理・人間学プログラム 心理学分野 3年
奥村 那美（新潟県出身）

社会文化学プログラム 考古学分野 4年
菅野 陽菜子（岩手県出身）

言語文化学プログラム 英米言語文化分野 4年
安部 旭生（山形県出身）

Q1

どうやって自分の専門を決めるの？

～多彩な入門講義や自分の「好き」が、未来の道しるべになる～

——人文学部では28の専門分野がありますが、皆さんはどのように専門分野を選びましたか？

安部 私は教員志望だったので「将来教えたい教科」を軸に考えました。1年次は日本史と英語で迷いましたが、様々な講義に触れる中で、元々好きだった英語に決めました。中でも、英文法が好きだったことから、英語学を中心に学んでいます。

奥村 私は高校生の頃から心理学に関心がありました。人間関係が広がるにつれ「人によって考え方や行動が違うのはなぜだろう」と興味が湧き、もっと人の心を知りたいと思って心理学

専攻を志しました。

菅野 入学時はやりたいことが明確ではなく、漠然と歴史に興味がある程度でした。しかし、1年次の入門講義で「考古学はモノを対象とする学問だ」という教員の言葉を聞いて考古学に関心をもつようになりました。特に、人の痕跡をじかに感じることができる点はとても面白いです。

——1年次にじっくり学問の性質を見極めたり、自分の「好き」を深掘りしたりして、納得のいく選択ができる環境が用意されているのですね。

Q2

専門分野はどうやって学ぶの？

～講義だけじゃない！能動的に学習することで深まる専門性～

——2年次からの専門的な講義では、具体的にどのようなことを学んでいますか？

安部 まず、基礎講義で、英米の文化や言語学的な文の成り立ちを学びます。3年次以降はさらに発展的な内容になり、基礎講義で身につけた知識を活かしてイギリスやアメリカの詩を読み解くこともあります。予習をしたり、疑問点は教員に確認したりすることで知識を自分のものにしています。

——他国の言語を学ぶのは大変そうですが、主体的に取り組むことで自分の探究したいテーマや卒論のテーマも見えてくるのですね。心理学と考古学はいかがですか？

奥村 認知、社会、臨床など多様な分野の講義を受けます。また、実験をしてレポートを書く講義もあります。実験後はデータを分析し、心という主観的なものを客観的に捉えます。その際、統計学の知識を用いるので理系的な側面もあります。

菅野 考古学は実際にフィールドに出る実習があります。2週間ほどかけて遺跡の発掘調査を行うのですが、実際に遺物が出てくると、かつてここに人がいたのだと実感できて本当に面白いです。

——実験の分析や遺跡での発掘など、実践的なアプローチで専門性を高めていけるのが大学の学びの醍醐味ですね。

Q3

専門分野と資格はどうつながる？

～将来の夢を叶える資格や、実践力を磨く実習～

——人文学部では様々な資格を取得できますが、皆さんが目指している資格を教えてください。

安部 私は英語の教員免許です。そのため、人文学の講義以外にも、英語の教え方や生徒指導のあり方など教育学に関する講義も履修しています。人文学部では、教職に必要な授業も卒業要件の単位として認めてくれるため、他の学びに時間を割く余裕があります。私はマイナー・プログラム（副専攻）で中国語を学び、検定にも挑戦できました。

菅野 私は学芸員の資格です。大好きな考古学の魅力を多く

の人に伝える力を身につけて。講義で資料の保存や展示方法を学び、博物館実習では実際に現場へ赴いて学芸員業務を経験します。

奥村 カウンセラーを目指して、国家資格である公認心理師の取得に励んでいます。各分野の専門知識を深めるだけでなく、実際に病院や教育現場に行く心理実習があり、心理職としての専門性と信頼性を高める実践を積んでいます。

——資格取得に向けたカリキュラムや現場実習が、将来の夢や、社会で必要な「人に伝える力」に直結しているのですね。

Q4

人文学部の「魅力」って、なんだろう？

～学問の垣根を越えた学びが、多様な選択肢をくれる～

——最後に、皆さんが実感している人文学部の魅力を教えてください。

安部 人文学部の特徴は人文系の学問を幅広く触れられることです。言語や文化を専門的に深められるのはもちろん、その他にも人文系のさまざまな分野の知識が吸収できます。そのため、自分の専門的な学びを、他分野の知識と結びつけながら深めていける。それが大きな魅力かなと思います。

奥村 私は自分の専門を深めながら、いろいろな人や学問との出会いを通して自分の価値観を広げることができる点が魅力だと思います。1年次に人文系の学問に関する説明や他の学問の入門講義で歴史や文学、言語などの幅広い知識を得ることで多様な考え方を身に付けることができました。

菅野 入学当時、何を学びたいか明確に決まっていませんでした。そのため、専門が分かれる前の1年次にやりたいことを考える時間や学問を広く学べる時間があったのは非常に良かったです。人文学部であれば何を学びたいか明確に決めている人でも学びたいことを見つけられると思います。

安部 本当にそうですね。だからこそ、高校生で学部選びに悩んでいる人や、将来の夢を決めかねている人にこそ、何にでもなれるチャンスがある人文学部をぜひお勧めしたいです！

——専門の枠に閉じこもらず、横断的に学ぶことで未来の可能性を無限に広げられる。これこそが人文学部の一番の強みですね。本日はありがとうございました！

【インタビュー・原稿作成】

寺沢 美紅 佐藤 恵香 鈴木 希実 佐藤 心音（人文学部学生プロジェクト）

私たち「人プロ」が活動しています！

私たち人文学部学生プロジェクト、通称「人プロ」は、人文学部の魅力を学内外に発信する学生チームです。SNSでの情報発信、オープンキャンパスの企画運営、新入生サポートなどを通して、学生目線で人文学部の「今」を伝えています。何よりも学部内のつながりを大切に、学部内の交流活動にも積極的に取り組んでいます。

地理学分野 4年 中村 快

「人文学部学生プロジェクト」ブログ

人文学部の学生が自ら企画・編集・執筆するブログ！

授業やゼミ、実習、留学、就職活動など、人文学部に関する様々なトピックについて学生の視点から知ることができます。Instagramでは更新情報をお知らせしています。ぜひご覧ください！



Blog



Instagram

私の時間割を教えます！

人文学部生のリアルな生活

学びの幅を広げよう

言語文化学プログラム 英語学分野 2年

佐藤 優頼

私は1年次様々な科目を履修し、学びの幅を広げ、2年次以降専門的に学ぶ分野が見つけやすいよう時間割を組みました。人文学部では2年次以降にコースを選択しより詳細な学びを得ることができます。現在は英米の文化を専門的に学び、充実した学生生活を送っています。



第2セメスター(1年2学期)

時限	月		火		水		木		金	
1	日本国憲法		データサイエンス総論I							
2	日本国憲法				多文化間共修C1		朝鮮語インテンシブII		朝鮮語インテンシブII	
3	朝鮮語インテンシブII		アカデミック英語入門L		朝鮮語インテンシブII		アカデミック英語入門R		死因究明と法	
4	言語文化学入門A		日本の小説と表現				言語文化学入門A		死因究明と法	
5							社会文化学入門A			

集中講義等：経営学概論II

第3セメスター(2年1学期)

時限	月		火		水		木		金	
1										
2	心理学概論A	心理学概論B	フィリピン語グローバル理解	スペイン語圏グローバル理解2			心理学概論A	心理学概論B		
3			英米言語文化基礎演習B				英米文化概説A			
4	言語学概説B		中級コミュニケーション英語						芸術学概説C	
5										

集中講義等：中小企業論、行財政入門

思うがままに学ぶ

心理・人間学プログラム 心理学分野 3年

市野瀬 佑飛

私は心理学が主専攻ですが、NICEプログラムで法学を修了することを目標にしていたため、法学部科目も履修していました。また、楽よりは気になるを重視しています。大変ではありますが、人生が豊かになる幅広い知識を得られていると実感し、充実しています。みなさんも思うがままに学んではいかがでしょうか。



第4セメスター(2年2学期)

時限	月		火		水		木		金	
1										民法Ⅲ
2			知覚・認知心理学A							
3	倫理学				民法Ⅰ		心理学研究法		学習・言語心理学	社会・集団・家族心理学
4			心理学実験B							
5						生成AI活用実践演習				

集中講義等：入門マクロ経済学

第5セメスター(3年1学期)

時限	月		火		水		木		金	
1										
2			家族社会学		ビジネス・アントレプレナーシップ入門				家族社会学	
3	心理学発展演習		心理学発展演習							
4	心理学特殊実験A				科学思想史					感情・人格心理学
5			メディア社会文化論概説A				哲学研究B			

人文学部では、必ず履修しなければならない「必修」の授業は、ゼミと呼ばれる演習の授業などに限られています。学生は自分の関心や進路希望に応じて自由に時間割を組んでおり、誰一人として同じ時間割を組んでいる学生はいないと言ってよいでしょう。ここでは、その一例を紹介します。

西洋史の学習と就活の両立

社会文化学プログラム 西洋史分野 4年

丸田 結子

3年2学期は、主専攻のゼミである西洋史演習を履修しながら、日本文学、宗教史など興味のある授業を履修していました。3年生までに卒論とゼミ以外の単位を取り終えるようにして、4年生では週1回のゼミ以外の時間は、就職活動に当てようにはしました。



第6セメスター(3年2学期)

時限	月		火		水		木		金	
1							日本近代文学論B			
2							対人行動の心理学			
3			宗教思想史B				西洋史演習			
4					科学思想史				西洋史演習	
5			新潟市の行政							

第7セメスター(4年1学期)

時限	月		火		水		木		金	
1										
2										
3			4年次は履修科目が少なくなりますが、卒業論文の執筆に向けて各自研究に取り組んでいます。				西洋史演習			
4										
5										

- 同じ曜限が2つのマス目に分かれている場合、左欄が第1、3ターム、右欄が第2、4タームです(ターム制については3-4ページをご覧ください)。
- 集中講義等は、夏休みの1週間に短期集中的に開講されたり、不定期に開講されたりする授業を指します。

独自の学びを切り拓くNICEプログラム メジャー・マイナー制

人文学部では、2年次から3つの学位プログラムのいずれかに所属し、メジャーと呼ばれる自分の専門分野の学びを深めます。他方で、他のプログラムや他学部の授業を、卒業認定単位に組み込むことも可能です。新潟大学では、学生の自律的で横断的な学びを支援するために、40を超える系統的な教育プログラム(マイナー・プログラム)が1年次より提供されています。

人文学部の学生のあいだでは、自分自身で探究課題を設定し、課題解決のために必要な科目を選択して履修する「学修創生型マイナー」プログラムが最も人気です。ほかに、履修すべき科目と修了要件が定められた「パッケージ型マイナー」プログラムがあります。人文学部生には、「社会文化学」など自分の所属学位プログラム以外の学位プログラムがパッケージされたものや、「ドイツ語」や「フランス語」などの外国語のパッケージ、「データサイエンスリテラシー」「ふるさと共創学」「法学」「ことづくり・マネジメント」「応用生命科学／食品科学」など、学部を横断するプログラムの人気が高いです。



心理・人間学プログラム

Psychology and Human Studies

ひとは何を思い、生きるのか？ 人間という謎にいどむ

私たちにとって、人間という存在ほど不思議なものはありません。ひとの心はどのように働き、何を生み出すのでしょうか。このプログラムでは、実験や調査によって心のしくみを実証的に解明したり、人の心が作り出してきた思想的文献や古今の芸術作品を読み解いたりすることで、人間の謎に迫ります。

【専攻できる分野】 心理学／芸術学／哲学／倫理学／宗教思想史

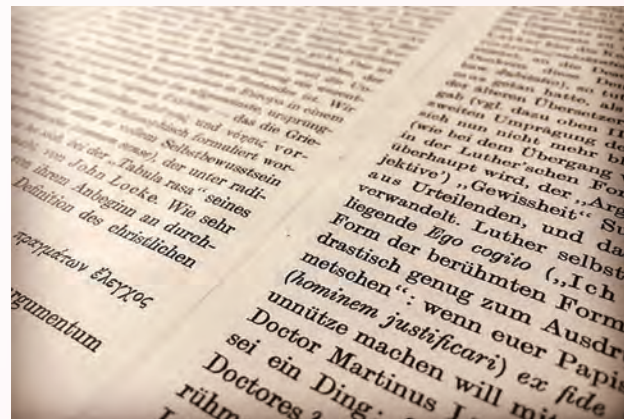
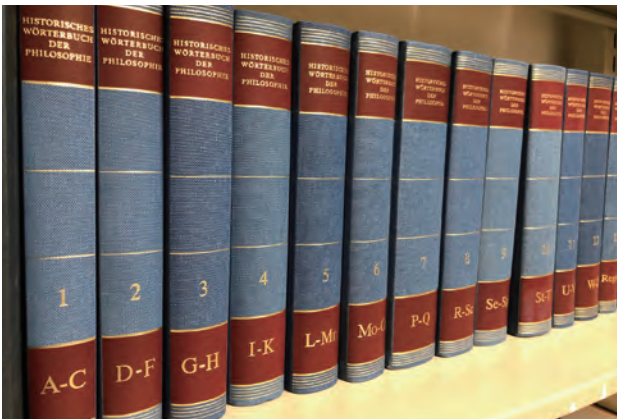
心理・人間学プログラムについて

心理・人間学プログラムは、人間とその心の解明をめざして、心理学と人間学の分野を学ぶプログラムです。

人間の行動やその心の働きをあつかう心理学分野では、実験や調査などの実証的方法によってこれらの問題にアプローチします。心理学実験や調査に関わる基本的技能を身につけるとともに、知覚・認知、記憶・学習、感情・行動、性格、対人関係や集団の心理、心理学の応用など、幅広い領域にわたる心理学の知識の習得を目指します。

人間学分野には、哲学・西洋哲学史、倫理学、宗教思想史、芸術学の学問領域があります。人間の心(精神)は、日常的な言語活動から哲学的な思考、芸術の探究にいたるまで、そして道徳的な善悪の判断から宗教的な信仰にいたるまで、じつに多様な精神的所産を生み出してきました。人間学分野では、主として外国語や古典語で書かれた原典文献の読解を通して、これら哲学、宗教、科学、芸術などの人間の知的な営みの原理を解き明かし、人間性について理解を深めていきます。

このプログラムは、人間が直面する様々な課題に対して、人間についての深い理解に裏づけられた科学的分析と思考ができるような人材の育成をめざします。



教員からのメッセージ

「こころ」の科学としての心理学

私自身が高校生であった頃、心理学に対して「性格と行動の間にはどのような関係があるのか、良い相談相手となるにはどうすればよいのか、を研究する学問」というイメージを抱いていました。全く誤りとも言えないのですが満点とも言切れないものです。皆さんはどのようなイメージを抱いているでしょうか。

ここで私が行なった研究を紹介します。高速移動する物体を高時間解像度で画面に提示すると、物体の移動距離が縮んで知覚されることを見つけました。方法として、まず高時間解像度での画像提示が可能な高速プロジェクタを心理学実験で使用できるよう、装置を調べてソフトウェアを設定しました。移動物体の画像やその見え方を測定するための準備は全てプログラミングによって行ないました。実験では参加者の方々の回答を二択とすることでデータを数値化し、統計的に処理しました。その結果、高速移動する物体は提示開始位置が運動方向にずれ、提示終了位置が運動方向と正反対に少しずれて知覚される(＝移動距離が短く見える)ことを見出しました。つまり、私はヒトの視覚メカニズムについて実験をしたということです。

いかがでしょうか。皆さんが抱いているイメージと違いましたか？上に挙げたようなテーマは知覚心理学で扱っています。心理学には他にも、認知、社会、発達、臨床、神経生理、学習、言語、教育、人格、産業・組織、交通…など、ヒトに関わる活動全てと言っても

応用・実験心理学
准教授 中嶋 豊 NAKAJIMA Yutaka

過言ではないほど幅広いテーマが含まれます。こうしたテーマの違いがあっても、現代の心理学では自然科学的手法による実験や調査によって「こころ」の働きを数値に変換し、それをデータとして分析する手法でその働きに迫ろうとする点は共通しています。

心理学は“Hub Science”とも言われるように、文理問わず多くの学問とのつながりが強いことが特徴です。人文学部の心理学分野では多角的な観点から「こころ」を見つめ、その働きを解明するための研究を進めています。皆さんも「こころ」を科学的に捉えてみませんか？



哲学・現代思想
准教授 岡嶋 隆佑 OKAJIMA Ryusuke

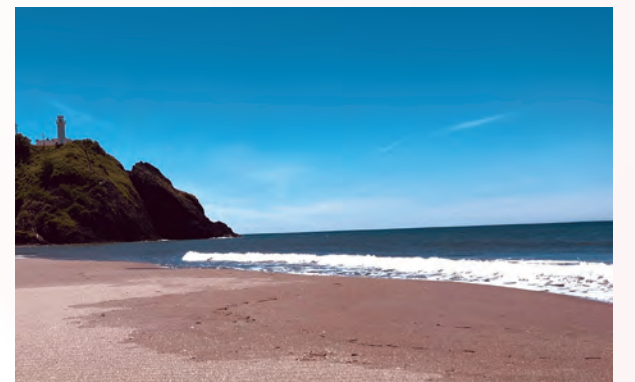
いま、哲学するとは？

ChatGPTの登場から月日が経過し、これを読んでいるみなさんの中には、高等学校や中学校の授業でAIを使ってきた、日常生活でも使いこなしているという人も多いことでしょう。学校の課題だけでなく、日々の悩み事から進路選択まで、即座に適切な答えやアドバイスを与えてくれる、いわばメンターのような存在としてAIを捉えているという人もいるかもしれません。たしかにAIは瞬時に答えを教えてはくれますが、そもそもみなさんは、何をきっかけとして、AIに質問や相談を投げかけたのでしょうか。学校の授業、友人や家族とのやりとり、SNSの投稿や社会の情勢——色々なことが思い浮かぶかもしれませんが、日常的な問いの多くは、自分ではそう思っていなかったとしても、外から与えられたものであることが多いのではないのでしょうか。そうだとすれば、自分自身で問いを立てること、自分の問いを持つことは可能なのでしょうか。

フランスの哲学者ベルクソンは、かつてこんなことを言っていました。「問題を見つけ、したがってまた問題を立てることは、問題を解決することよりもはるかに重要である。なぜなら、思弁的な問題とは、うまく立てられた時点ですでに解決されているのだから」(『思想と動くもの』)。彼としては、当時の常識的な発想への批判も含みつつこのように述べたのですが、現在であればむしろ、こうした考えに共感を覚える人の方が多いのではないのでしょうか。AIは問題を

解決するための手段を徐々に自動化しつつありますが、私たちそれぞれに固有の問いの立て方までは教えてくれないからです。

では、何を頼りにすれば良いのでしょうか。さまざまな分野でAIが自律的に問いを立て、自走するようになるまでにどのくらいの時間が残されているのかはわかりません。しかし私は、膨大な数の問いと応答の集積である哲学の歴史にこそ、鍵となる着想や規範となる考え方をいまなお見出しようと考えており、その意義を少しでも学生みなさんに伝えられればと願っています。



学生の声

揺さぶられる

哲学と聞いてどのような印象が浮かびますか。部屋のなかで本とにらめっこしながら黙々と考えている姿が浮かびますか。たしかにそのとおりです。けれども、わたしは本を読んで考えることだけが哲学の魅力ではないと思います。本を読むことに加えて、だれかと対話することも哲学の営みのひとつです。だれかの本を読んだり、だれかと対話することで、自分が今まで出会ったことのない考えを前にして、わからなくなったり、驚いたり、感動したり……。そうして考えはじめると、わたしがじかにふれている日常がすこしずつ揺さぶられるような。わたし自身が、木の枝のようにあらぬ方向に広がっていくような。わたしが見ていた景色とはすこしちがう景色がそこに浮かび上がってくるような。このような体験が哲学することの魅力だとわたしは思います。

菊池 誉

哲学 4年



ひと ヒト 人

毎日駅で見かけるだけの人を気になるようになったことはありませんか？性格の素敵な人が見た目で魅力的に見えることは？ 私たちは見たり、聞いたりあるいは嗅いだり触れたりして世界と関わり、考えたり感じたりします。心理学では人間の心の動きを科学的に分析しようと試みます。実験を通じて、ある刺激に人がどのような反応や行動をするかを調べ、心の仕組みを探ります。しかし面白いことに、同じものを見ても違うふうに感じることや、逆に全く違う性格の人がなぜか同じ行動をとるようなことだってあります。身近で不思議な人の心を解き明かしたい！という方はぜひ心理学へ！

渡辺 陽介

心理学 4年



自身の世界を広げる

私は宗教学でイスラーム教について学んでいます。日本には仏教やキリスト教由来の行事はありますが、イスラーム教のものはほとんどないため、日本人にはそこまで馴染みがないかもしれません。日本から遠く離れた地かつ全く異なる文化について学ぶというのは、まるで精神だけ海外旅行をしているようなもので、驚きと発見、そして新しい知見を得ることへの喜びで満ちています。私自身、大学で宗教学を学んだことによって、より異文化への理解が進み、他者を思いやることができるようになりました。そしてこれは、人間学で「人間」をより深く理解し、自身の世界の中に人間学での学びを組み込むことができたからだと感じています。人間学には他にも、哲学や芸術学、倫理学と幅広い学問が用意されています。ぜひ人間学と一緒に学び、世界を広げてみませんか？

長沢 優香

宗教学 3年



心理・人間学プログラム 教員紹介

教授 宗教学・イスラーム思想史

青柳 かおる

AOYAGI Kaoru

ガザリー（1111年没）を中心に、アラビア語の文献を読みながら、古典時代のイスラーム思想史、とくにスーフイズム（神秘主義）を研究しています。ガザリーの「婚姻作法の書」を翻訳し、婚姻、女性、セクシュアリティについてスーフイズムの視点から研究してきました。最近では、現代のイスラーム法学者の文献も分析し、古典時代から現代までのイスラームの女性問題および生命倫理の変遷を明らかにしたいと考えています。

准教授 哲学・西洋近代哲学

阿部 ふく子

ABE Fukuko

デカルトの「我思う、ゆえに我あり」に始まる西洋近代哲学の根源的なテーマである「人が考えるとはどういうことか」について探究しています。古来より人間は理性的動物であると言われますが、その理性の能力の可能性や限界はどこにあるのか—など理性の謎に迫ってみるのは、人間が自分自身を思考の旅のようでもあり面白いのです。また哲学教育にも関心があり、多様な立場の人たちと身近な話題で哲学対話を実践したりしています。

教授 映像文化論

石田 美紀

ISHIDA Minori

専門は映像コンテンツを構成する視聴覚表現を分析する映像文化論です。最近ではアニメにおける声の歴史と機能について研究を行っています。コンテンツ・ビジネスはさまざまな表現を商品として社会に流通させます。私たちはそれを楽しむのですが、受動的に消費しているばかりではありません。コンテンツを能動的に読み解き、ときには自ら表現も行っています。制作者と受容者の交渉からなる映像文化のダイナミズムと一緒に考えてみませんか。

准教授 比較文化史

猪俣 賢司

INOMATA Kenji

小さな真珠のような一首の歌の中に繰り広げられる煌めくような妖艶な世界や水底の月夜、それを可能とする巧みな修辞技法と美しい韻律、どのようにして『古今和歌集』でそれが実現されたのであろうか。比較詩学・比較文化史の視点から、西洋の古典詩学・ルネサンス詩学や中国の六朝詩学と日本の王朝歌学を比較研究してきました。ダンテ、ペトラルカ、謡曲からゴジラ映画まで、その表現原理と表現史を辿りながらも、屏風歌人である紀貫之の「むすぶ手」が映し出す泡沫の面影に心が慰められます。

准教授 哲学・現代思想

岡嶋 隆佑

OKAJIMA Ryusuke

ベルクソンを中心としたフランス哲学が専門です。これまでは、時間や意識、知覚、記憶といったテーマに関して現代的な観点を取り入れたテキスト解釈を中心とした研究を行ってきました。現在は、これらの主題についての哲学史・心理学史的な考察に関心が移行しており、19世紀半ばから20世紀初頭にかけての膨大な文献の分析を行うためのツールを生成AIを活用して作成したりしています。新しい技術の研究利用だけでなく、その哲学・倫理的な含意も含めて、学生のみならずと一緒に考えていければと思います。

准教授 芸術表現論

甲斐 義明

KAI Yoshiaki

専攻は近現代美術史で、中でも特に、写真の歴史について研究を行ってきました。授業では日本写真史、20世紀美術史、ドキュメンタリー映画、イメージ論、絵本など視覚文化に関する幅広いトピックを取り上げています。少人数で行われる演習形式の授業では、他者が作った画像の分析方法を学ぶだけでなく、デジタルカメラや画像処理ソフトの使用を通して、「手を動かして」イメージについて考える機会を作ること心掛けています。

准教授 発達心理学

小林 恵

KOBAYASHI Megumi

視覚認知、特に顔や身体からの他者認識の発達過程が主要な研究テーマです。生後数ヶ月の赤ちゃんから大学生を対象としており、視覚認知のさまざまな能力がいつ獲得されるのか、大人とどのように違うのかを研究しています。近年では学内外の共同研究者と協力して、発達障害児や早産児の視覚認知の解明にも取り組んでいます。私たちが何気なく見ている日常の世界を、赤ちゃんの目を通して見つめ直せるのがこの分野の魅力です。

助教 分析哲学・道徳哲学

須田 悠基

SUDA Yuki

真理論・認識論・メタ倫理という3つの哲学分野を専門的に研究しています。いずれの分野の研究も、〈ある主張の正しさがいかに定まるのか〉という関心と紐づいています。「今日の天気は晴れだ」という主張は空を見れば正誤がわかりますが、「暴力は悪い」といった倫理的主張の場合はどうか。なにがその主張の証拠となるのか。このような問題関心に連なる問いを、前述の3つの分野の視点から検討しています。関心のある方はぜひ一緒に考えていただけたら嬉しいです。

教授 西洋美術史

田中 咲子

TANAKA Emiko

専門は西洋美術史です。美術史とは、必ずしも美術の歴史そのものを研究するとは限らず、美術作品を手掛かりに、当時の社会や人間の諸相の解明を目指す学問でもあります。私自身の研究領域は古代ギリシア美術です。当時の墓碑浮き彫りをはじめとする葬礼美術や、壺絵に描かれたギリシア神話、スポーツの図像などを通じて、当時の人々の価値観や規範概念について考えています。授業では西洋古代から現代に至る幅広い作品を扱います。

准教授 応用・実験心理学

中嶋 豊

NAKAJIMA Yutaka

主に眼の錯覚（錯視）について研究しています。錯視は見て面白いだけではなく、人間が世界をどのように知覚しているかを知るための重要なツールとなっています。また、他学部を含めた異なる分野の教員や企業との共同研究を通して、人間の知覚・認知特性を社会や技術に活かすための応用的研究も進めています。このように研究対象は知覚・認知に関する疑問から社会の問題まで幅広いです。心理学の学びを通して、様々な疑問や問題と一緒に取り組んでいきましょう。

准教授 認知心理学

新美 亮輔

NIIMI Ryosuke

認知心理学の研究をしています。主に視覚認知、周囲の物や状況を見て認識する物体認識・情景認識といった人間の知覚・認知の根幹となるメカニズムを調べています。たとえば、見る角度や表情や髪型が違って同じ人の顔の正しさと認識できるのはなぜでしょうか？ みんなに好まれる美しい見た目の物とそうでない物があるのはどうしてでしょうか？ 人は目のみによって見るにあらず！「見る」ことの奥深さと楽しさを追究してみませんか。

教授 社会心理学

福島 治

FUKUSHIMA Osamu

講義では、自尊心や魅力、恋愛や集団心理などが話題の中心です。身近な事柄なので、自らの経験と関連させて聴く学生さんも多いようです。人格心理学も教えています。こちらでは、性格についての様々な理論を話しています。専門家の考える性格は、一筋縄ではとらえきれませんが、そこから考え方の多様性を学んでほしいと思っています。研究テーマは自己概念の変動性です。入学して新しい「自己」を見つけましょう。

准教授 西洋哲学

安田 将

YASUDA Masaru

私が書いてきた論文の多くは、西洋古代における知恵の概念に関するものです。知恵を求める哲学の営みには、そのめざすものを繰り返し省みることによってすぐれた探究となるという性質があるのではないか、そして知恵にはそのように誠実な探究者によって時には存在そのものをも疑われることによってかえって理想としての地位を保つというおもしろい特徴があるのではないか——この見通しのもとに、私は西洋古代のテキストに注目してきました。

助教 臨床精神神経心理学

横山 仁史

YOKOYAMA Satoshi

うつや不安といった様々なこころの状態を作り出す脳のしくみを調べています。脳がどのようにそれらの気分を引き起こし、自ら調節しているのかといった基礎的な理解から、どのような場合にそれがうまく働かなるのか、治療を通して脳がどのように回復していくのかといった応用的な取り組みも行っています。人の精神的健康のメカニズムを脳から解明していく面白さを一緒に探しに行きましょう。

社会文化学プログラム

Studies of Societies and Cultures

世界の多様性に触れ、文化を読み解く

ますます多様化する現代社会——その理解は、歴史的・文化的・社会的背景を正しく捉えることに始まります。各種の資料の調査、あるいは現地調査やメディア実践を通じて、文化の生き生きとした姿に触れるとともに、深く理解する力を身につけましょう。

【専攻できる分野】 社会学／考古学／文化人類学／地理学／民俗学／芸能論
日本史／アジア史／西洋史／メディア論

社会文化学プログラムについて

社会文化学プログラムは、人間の社会的文化的な営みを、歴史学、社会・地域文化学、メディア論の各領域を通じて学びます。履修にあたっては、一つの領域を選んで深く学ぶとともに、複数の領域を関連・総合させて学習を進めます。

歴史学では、歴史をテーマとして、人々の営みを専門的に学びます。歴史を明らかにするための資料・史料は、古文書や碑文、木簡、絵画、写真や地図、統計など、じつに様々な形をとって私たちの前に蓄積されています。それぞれのテーマに合った資料・史料の性質を理解し、読み解くスキルを身につけます。

社会・地域文化学は、社会学、文化人類学、民俗学、考古学、地理学、芸能論の6つの学問分野があり、いずれもフィールドワーク＝現地調査を通して学びます。直接現地に足を運び、自らの身体を使い、五感を働かせて調査し考えることで、人々が築いてきた世界を実感し、人間社会の多様性の理解を深めます。

メディア論では、TV、新聞、ラジオ、コンピュータ、スマートフォン、インターネット、ソーシャル・メディアなど、私たちの身の回りにあふれる様々なメディアと、それが伝える表現や文化を捉え直し、多様なメディア実践——取材活動や作品制作を通じて、現代社会で生きることのリアリティを探究していきます。



教員からのメッセージ

改訂されていく過去

歴史というと、どうしても年代、出来事、人名の暗記を思い浮かべる方が多いと思います。しかし大学で扱う歴史学という学問は、教科書や解説書に書かれてあることについて、本当にそうかと疑うことであり、その根拠を確かめることであり、場合によってはこれまでの思い込みを打ち破って新しい見方を示そうとすることです。そしてその積み重ねによって、過去の出来事についての考え方を豊かにしていくことです。

私の専門は西洋古代史、特に古代ギリシア史や古代オリエント史ですが、世界中の研究者によって毎年多くの論文が公にされ、それらに対する賛否両論の議論を経て全体として歴史像が毎年刻々と変化していきます。大学で歴史学を専門として学ぶということは、その現場に触れ、自らその活動に関わっていかうとすることです。

この100年間の学界で西洋古代史に関して生じた大きな変化の例の一つ挙げると、ヨーロッパ史と古代オリエント史の関係についての考え方の激変があります。かつてその関係については、相いれない対立部分が強調されて語られることが主流でした。しかし、ヨーロッパ史のスタート地点とも言えるエーゲ文明で使われていた古代文字の一部が1950年代に解読されてからは、エーゲ文明と古代オリエント文明が重要な特徴を共有していることが明らか

西洋古代史・西洋古典学
教授 高橋 秀樹 TAKAHASHI Hideki

になり、世界中の研究者が二つの文明の交流や共通点を研究テーマとするようになりました。このことは、エーゲ文明を含む古代ギリシア文明全体と古代オリエント文明の関係の再検討、そして古代ギリシア文明を端緒とする西洋文明とアジアの文明の関係の再検討へと波及しました。

歴史学は、過去の出来事を扱うものであるだけに、もう変わることもない静止したものとしてイメージされることが多いですが、実際には大小さまざまな新発見と研究によって刻々とうねり動いていくものです。みなさんもその現場に触れてみませんか。



エーゲ文明クノッス宮殿の遺跡

メディア論を学ぶ

まずは、大学を選ぶようとしているみなさんが、新潟大学人文学部にご関心を持っていることに感謝したいと思います。では、そもそも、みなさんが、大学を選ぶ理由、さらに言えば、大学に行く理由は何でしょうか。大学は知識を受け取るだけでなく、自分の思考を鍛え、世界を多角的に理解する力を育てるところと言われます。新潟大学はまさにそのような力を養える場を提供します。社会の課題を分析し解決する視点が得られるでしょう。また、異なる背景を持つ人々との議論や協働を通じて、新しい発想や価値観に触れ、自分の可能性を広げることができ、将来の選択肢を豊かにすることでしょう。

次に、人文学部を選ぶ理由も確かめておきましょう。人文学部は、人の思考・文化・社会の成り立ちを深く理解し、現代の問題を多角的に読み解く力を身につけるところです。歴史・哲学・文学・言語などを通じて、人がどのように世界を意味づけ、価値を形成してきたのかを探究できます。また、答えが一つに定まらない問いに向き合うことで、批判的思考や解釈力が鍛えられ、複雑な社会を生きぬくことができるでしょう。新潟大学人文学部は、このような力を身につけられる環境を整えています。

と、言いたいところなのですが、ここまで書いてきたことは人文学部の一般的な話です。私の専門であるメディア論についての説明を付け加えておきましょう。

メディア論
教授 中村 隆志 NAKAMURA Takashi

メディア論は、情報がどのように作られ、流通し、人々の認識や社会の意思決定に影響を与えるのかを理解します。ニュース、広告、SNSなど多様な媒体は、事実だけでなく価値観や感情も形づくるため、その仕組みを分析することで、情報を主体的に判断する力が身につきます。また、メディア利用の表現者としてのトレーニングを積むことで、より良い対話や表現のあり方を考える基盤にもなるのです。つまり、メディア論を学ぶのは、人と人とのつながりを主体的に学ぶ、ということなのです。

新潟大学人文学部をおすすめします。さらに、メディア論にご関心をお持ちいただければ幸いです。



映画「国宝」の世界のウソとホント

2025年に大ヒットした映画「国宝」。任侠の家に生まれた喜久雄は、歌舞伎役者の花井半二郎の部屋子となり、歌舞伎の道に飛び込みます。しかし歌舞伎の血筋ではない喜久雄は、異端の存在として多くの苦難に直面しました。それらを乗り越えつつ、人生のすべてを歌舞伎に捧げた喜久雄は、ついには「人間国宝」となった……という物語。

この映画の大ヒットによって、現在の歌舞伎に対する関心も一気に高まりました。東京・東銀座の歌舞伎座には、これまで歌舞伎に関心のなかった新しい観客も増えています。またテレビ番組だけではなく、ネットの記事でも、歌舞伎が取り上げられたり、歌舞伎役者が登場したりする機会がとて増えました。歌舞伎ファンには有名なだけけど、それまで一般的な知名度が高くなかった俳優についても、メディアで頻繁にみるようになったのは、これまでになかった現象かもしれません。

その一方で、メディアの歌舞伎に関する説明には、歌舞伎に対する理解不足、知識不足といわざるを得ないケースも珍しくありません。たとえば喜久雄の設定につなげるためなのか、一般家庭から歌舞伎役者の養子に入った役者まで、わざわざ「家の子」ではないと紹介されることがあります。しかし歌舞伎に限らず、養子は実子同様に扱われます（つまり「家の子」扱い）。もちろん本人の中には葛藤があったかもしれませんが、映画「国宝」の影響が

新潟における留学生の歴史

現在新潟大学には、大学院生を含めて留学生が500人弱在籍し、日本語やさまざまな専門分野の学習・研究に取り組んでいます。そもそも日本に多くの留学生が来るようになったのは、19世紀末以降のことです。とくに清末の中国では日本留学ブームが起り、留学生は最盛期に1万人にも達していたと言われます。そのなかには、作家の魯迅や革命家・思想家の陳独秀、秋瑾などが含まれていました。

新潟で過ごした留学生のなかでも、著名な人物として、清末期に高田の陸軍士官学校に留学した蔣介石を挙げることができます。蔣介石は、砲兵科に学び、新潟で一年ほど過ごしたあと、帰国して国民革命に身を投じました。

新潟大学のルーツのひとつ、新潟医学専門学校（1922年官立新潟医科大学）でも、1911年ごろから台湾や朝鮮、中華民国からの留学生が学び、卒業後医師となりました。さらに1930年代以降、新潟・高田師範学校（教育学部の前身）へ、「満洲国」から留学生が派遣され、4年間学んだあと卒業しています。彼らのなかには漢族のほか、朝鮮族、モンゴル族が含まれていましたが、いずれも新潟での留学生活のなかで、日本の生活に慣れ親しみ、その後、さまざまな道へ進みました。しかし日本と中国の戦争が激化するなかで、彼らの人生もこれに大きく翻弄されてゆきます。日本が敗戦を迎える

芸能論
准教授 中本 真人 NAKAMOTO Masato

あまりに大きいために、かえって歌舞伎を誤解するような説明になっています。

それ以外にも、歌舞伎やその歴史については、まだまだ一般の理解や認識が追いついていません。歌舞伎について知ろうとすると、江戸時代の生活や習慣にも興味が湧いてくる。芸能論は、芸能そのものはもちろん、それを成り立たせる文化や社会にも目を向ける学問です。ということは、時代や地域、媒体を問わず、社会や文化に関わるあらゆる事物が研究対象になります。映画「国宝」で歌舞伎に興味を持たれた方は、ぜひ新潟大学人文学部で芸能論の大きな世界に触れてください。お待ちしております。



初代市川團十郎(落合芳幾画)

中国近現代史
教授 広川 佐保 HIROKAWA Saho

1945年以降、彼らの多くは祖国に戻るか、日本あるいは台湾にとどまるか、選択を余儀なくされます。そして祖国に戻ることを選んだ人々は、中国の大きな変化に巻き込まれてゆきました。それから長い月日が経ち、日本と中国が国交を回復した後、元留学生たちにふたたび光があてられ、彼らが日中交流の最前線にたつこととなりました。留学生たちの歩みを顧みると、大学での学びは在学中だけにとどまるものではなく、そこで学んだ人たちの人生に大きな影響を与えるものであったことが見て取れるでしょう。



1918～1933年 新潟師範学校絵葉書(にいがた地域映像アーカイブ・データベースより)

「生きた歴史」に触れる

皆さんは歴史という学問に対してどのような印象を持っていますか。教科書に書かれている出来事や年号を暗記する科目という印象を持つ人も少なくないかもしれません。しかし、大学の歴史学は全く違います。大学の歴史学は、与えられた正解を覚えるのではなく、史料に記された出来事を整理し、その背景を自ら問い直すことで、新たな事実を掘り起こしていく学問です。また、国家や権力者の視点として書かれた公的な記録だけでなく、一般の人が書いた日記や手紙を読み解くことで、当時の人々の息遣いや社会のリアルな姿に触れること、こうした「生きた歴史」を知ることが大学での学びの醍醐味であると考えています。過去の人々の営みを知ることが、現代社会を考える大きなヒントになります。ぜひ私たちと一緒に、生きた歴史を学んでみませんか？

藤川 裕太

日本史 4年



メディア論、想像以上！

「メディア」と聞いて何を思い浮かべますか？ テレビ、新聞、インターネットなどの「狭義のメディア」を思い浮かべる人が多いと思います。メディア論分野では、これらに加えて、サブカルチャーや音楽、アーカイブなどの「広義のメディア」も探求の対象としています。例えばある授業では、AIを使って曲や動画を制作するグループ課題に取り組むことで、可能性も限界も踏まえたAIとの付き合い方を学びました。他にも、メディアの歴史やテレビ・広告の表現技術、映像制作、デジタルアーカイブなどについて、座学と実践の両面から学べるのがメディア論分野の特徴です。メディア論を学んでいると、何気なく捉えていたメディア現象も、新たな視点から見つめ直すことができるようになります。あなたの興味や関心を幅広く受け止めてくれるメディア論分野で、私たちと一緒に楽しく学んでみませんか。

坂上 亜優

メディア論 4年



社会文化学プログラムで学べること

現代社会における市民運動 / ジェンダーの社会学 / 学習と教育の人類学 / 絵図を考える・絵図から考える
日本の歌舞音曲 / 新潟の暮らしと伝承 / 日本とアジアの考古学と文化 / 戦国期の地域と権力構造
日本近世の地域と交流 / 20世紀日本社会の歴史を多角的に考える / 古代エジプト人とフェニキア人の歴史
西洋美術史 / 現代アメリカの民主主義思想 / 中国の国家と社会の変化 / 日本とアジアの関係史 / 朝鮮家族史研究
インターネット・モバイル社会 / 今日の映像文化 / ポピュラー音楽研究

「当たり前」を疑うおもしろさ

これを読んでいる方の中に普段の日常生活で、「そういうものだから」と受け入れつつも疑問に思っているようなルールや文化はありますか？ そうした小さな疑問の正体を解明することができるのが「社会学」という学問です。皆さんの目の前にある家族、学校、SNS、推し活、そして今自分が抱えている小さな生きづらさまで、そのすべてが立派な研究テーマになり得る自由度にあふれた学問です。さらに社会学にはもう一つ大きな魅力があります。それは実際に町に出て人々の声を聞くフィールドワークを通して学ぶことができるという点です。文献を読んだだけではわからない当事者の方々の生の声を実際に聞くことで、社会のリアルに迫ることができます。難しく考えなくても大丈夫！あなたの抱える小さな疑問や、「当たり前」を疑うおもしろさを、大学で一緒に楽しく学んでみませんか？

下田 大樹

社会学 3年

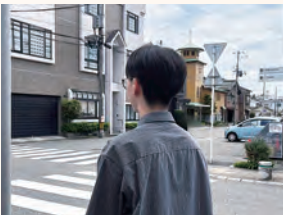


フィールドワークで地域を知る

民俗学は、人びとの暮らしのあり方を探求する学問です。祭りや伝承だけでなく、食文化や信仰、地域に残るさまざまな慣習なども研究対象となります。民俗学ゼミでは、年に2回、実習地に赴いて調査実習を行っています。現地では地域の方々への聞き取り調査を通して、その土地ならではの生活文化を捉え、調査内容を整理しながら理解を深めています。調査で得た成果は報告書としてまとめ、調査地の方々にお渡しし、地域の文化や歴史を記録として残すことにもつながっています。フィールドワークだからこそ分かる地域の魅力に触れられることが、このゼミの面白いところだと思います。身近な暮らしの中にある文化や歴史、そしてそこに表れる地域ごとの違いに興味がある方は、ぜひ民俗学を学んでみてください。

大野 広太郎

民俗学 3年



社会文化学プログラム 教員紹介

准教授　地域社会学

伊藤　嘉高

「自己責任」の名の下、格差や孤立が広がる今日において、私たちが「共生」し、助け合うことは困難になる一方です。人びとが集まれば自然に社会（助け合いの単位）が生まれるわけではありません。むしろ、課題を共有し、課題をともに解決する動きから共生の意識が生まれます。そうした共生の意識を生み出す場としての地域社会の可能性を追究するために、私は、防犯、防災、医療などのさまざまな分野で調査研究を行っています。

ITO Hirotaka

准教授　メディア論

榎本　千賀子

情報通信技術を活かして、地域の記録や記憶を保存・継承・活用することを目指すデジタルアーカイブ活動について、福島県奥会津地域での実践を中心に研究しています。また、人々が環境と応答して生み出す身近な「かたち」に関心を寄せ、写真作品の制作に取り組んでいます。変化の激しい現代において、地域の過去・現在をいかに捉え、未来へと繋ぐことができるのか、みなさんとともに自ら手足を動かしつつ考えたいと思っています。

ENOMOTO Chikako

助教　地理情報科学・自然地理学

太田　凌嘉

私は、折れ尺から加速器まで、課題解決に最適なツールを適用したフィールドワークを基礎として、自然環境の成り立ちとその変化を駆動するシステムを探究しています。私たちが身近な環境の恵みを享受すると共に、自然災害を我が事と捉えて近未来に起きうる事象に備えるには、地球表層における気圏・水圏・地圏・生物圏の相互作用領域（Critical Zone）の機能を理解してゆかなければなりません。必要と疑問を糧として、一緒に研究しましょう！

OHTA Ryoga

准教授　日本中世史

片桐　昭彦

日本中世史のなかでも戦国時代の権力と文書について研究しています。具体的には、上杉謙信や武田信玄などの印判状・感状・制札がどのように発給され機能したのか、またその意義を探ることにより地域権力の構造や特質を考えています。授業では、文書に限らず日記や年代記、金石文など様々な中世の文献史料を読み解くとともに、考古・地理・民俗学などの成果に学びフィールドワークも取り入れていこうと思っています。

KATAGIRI Akihiko

准教授　メディア論

古賀　　豊

メディア論を専門としています。近代以降の社会は、印刷、写真、映画、TV、コンピュータ、インターネットといった様々なメディアの登場により、それまでの社会と比べて大きな変容を遂げています。今日、その変容の速度はますます増加し、我々の生活のあり方そのものを変えてしまうかのようです。このような時代は、ある意味では、たいへん興味深く、面白いものです。現代という時代の意味を、皆さんといっしょに考えていきたいと思います。

KOGA Yutaka

教授　考古学

白石　典之

今から800年ほど前、ユーラシア大陸の東西にまたがる巨大国家となったモンゴル帝国と、その建国者チンギス・ハンについて考古学から研究しています。なぜ強大な国が誕生したのか、チンギス・ハンとはどういう人物か、いまだ謎に包まれています。それは文字資料（史料）にウソや誇張が多いからです。そこで私は、彼の宮殿跡や武器工房跡を発掘し、出土した遺構や遺物など物質資料（モノ）から、その謎に実証的に迫っています。

SHIRAISHI Noriyuki

准教授　ジェンダー論

杉原　名穂子

家族社会学、教育社会学、ジェンダー論を専門としています。女性と男性でどのような違いがあるのか、進学先や就職先の決定、子どもの教育に家族が及ぼす影響について研究しています。家族のあり方や子どもの進路選択は地域によっても違いますが、新潟県と首都圏との違いに主に焦点をあてて調査を行っています。近年、格差社会ということが話題になっていますが、子どもや親が抱く希望や意欲のあり方についても注目しています。

SUGIHARA Nahoko

准教授　文化人類学

園田　浩司

アフリカ熱帯雨林に暮らすカメルーン狩猟採集社会バカBakaの人々を対象に、フィールドワークに行ってきました。狩猟採集社会は、老若男女問わず、みなが平等で対等な社会だと言われます。バカの子どもたちは、日常生活を通してそれをどのようにして学んでいるのか。それが私の問いです。文化人類学は、相手の視点に立って世界を捉えなおす学問です。ぜひ、世界の人々の様々な生き方に触れてみてください。

SONODA Koji

教授　西洋古代史・西洋古典学

高橋　秀樹

西洋の古代や中世を研究しています。今年の授業で取り上げているのは、古代エジプトの歴史・文化・神話、古代ギリシアの歴史・文化・神話、中世の英雄伝説（アーサー王、ローラン、エルシッド他）、ケルト文化などです。古い時代の歴史や文化は、まだまだ謎が多く、新しい発見や研究方法によってそれまでの研究が大きく変わることがある、エキサイティングな分野です。この面白さを多くの学生諸君に伝えたいと願っています。

TAKAHASHI Hideki

准教授　西欧政治思想史

高橋　康浩

専門は西欧政治思想史、アメリカ思想史。キリスト教神学思想史にも関心があり、アメリカにおける宗教と政治の関係、現代民主主義の政治理論を中心にして研究をしています。演習においては、アメリカ史を舞台に上記のテーマや、戦争と平和といった政治外交上のテーマ、人種問題などのアメリカ国内のテーマについても考察の対象にしていきたいと考えています。

TAKAHASHI Yasuhiro

教授　情報メディア論

中村　隆志

今、ケータイによる人々のコミュニケーションと、ケータイが作り出す様々な文化と広告について研究しています。多くの人がケータイを持っていますが、その歴史はまだ浅く、逆に言えば、我々の日常生活や人とのつながり方を今まで以上に変えていく可能性を秘めています。最も身近にあるケータイを通して、広い世界や社会、文化を研究・考察していく道が皆さんの前に広がっているのです。共に進めることを願っています。

NAKAMURA Takashi

教授　日本近現代史

中村　　元

日本近現代史の中でも特に都市史を専門としています。これまでは主として20世紀前半期の大都市周辺の都市における空間的・政治的・社会的変化の相互関係に注目し、近代日本における都市形成と「デモクラシー」の関係を研究してきました。今後は時間的には20世紀後半期、空間的には都市周辺の農村にも視野を広げつつ、人々の社会におけるリアルな在り方に即して日本近現代史の全体像を見通す方法について、皆さんと考えていきたいと思っています。

NAKAMURA Moto

准教授　芸能論

中本　真人

日本の古代から中世にかけての芸能を中心に研究しています。古代から近世までの貴族たちは、和歌や書だけでなく、音楽や舞中心に芸能にも通じていることが求められていました。貴族たちの芸能は、具体的にどのようなものだったのでしょうか。また彼らは、誰から、どのような方法で芸能を学んだのでしょうか。絵画や彫刻、文学などとは異なり、過去の芸能は一切形に残りません。その形に残らない芸能について、過去の文献と現代の芸能実演の両方を調査することにより、具体的に明らかにしたいと試んでいます。

NAKAMOTO Masato

教授　日本近世史

原　直史

江戸時代の都市や商品流通を主な研究対象にしており、地域社会の構造と変容に大きな関心を持っています。「近世」という時代は日本列島において、ウェスタン・インパクト以前の伝統的な社会が最も成熟した時代であり、その時代を探ることは、私たちの現在と未来を考えるうえでとても重要な意味を持つと考えています。授業ではしたがって、こうした近世社会を多様な角度から検討しようと心がけています。

HARA Naofumi

教授　中国近現代史

広川　佐保

20世紀初頭の中国東北やモンゴル地域の歴史、そして日本とアジア関係史について研究しています。中国やモンゴル、台湾の史料館で史料を探索し、歴史の舞台を自らの足で歩くことに努めています。そうすることで史料と現在の人々の暮らしがつながり、今日的な問題を考えるきっかけにもなります。大学では近現代のアジア史関係の書籍や資料を通読していますが、教室を飛び出してフィールドを歩くことをすすめています。アジア近現代史には、まだ研究されていない分野が多く残されています。皆さんのオリジナルな研究や発見を期待しています。

HIROKAWA Saho

教授　西洋中世史・西洋美術史

細田　あや子

ヨーロッパ中世の文化史に関心を持ち、とくに美術作品とキリスト教文化との関係を探っています。生と死、天国と地獄、天使と悪魔、聖杯の謎など、怪しげなものにひかれ、それらがどのように表現されているのか考察中です。授業では、ロマネスクの素朴な聖母マリアさまの彫刻から、ゴシック期の大聖堂建築、ルネサンスの巨匠たちやフェルメールやレンブラント、さらに近現代の芸術家まで視野をひろげつつ、学生とともに美術史の面白さを学んでいます。

HOSODA Ayako

教授　人文地理学

堀　　健彦

人文地理学の中でも、歴史的な側面を重視しながら地理事象を考察する歴史地理学が専門です。最近ほ、明治期に作製された地籍図という資料を使って、歴史的な景観を精緻に復原する作業を佐渡島で行っています。また、近世会津藩が作成した『新編会津風土記』に記されている地理情報についてもGISを活用して分析を進めています。細かな作業の積み重ねですが、それらが組み上がって全体像が徐々に見えてくのが醍醐味です。

HORI Takehiko

教授　社会学理論・災害社会学

松井　克浩

個人の自由を支えるような人と人とのつながりは、どうすれば可能になるのか。それを理論研究と地域研究の両面から考えています。理論の方は、M・ヴェーバーをもとに、権力や秩序、コミュニケーションを成り立たせるメカニズムについて研究しています。地域研究では、中越地震・中越沖地震の被災者・被災コミュニティを調査して、被災地の再生や災害に強い地域社会のあり方、災害ボランティアの役割などについて考えています。

MATSUI Katsuhiko

准教授　中国近世史

村上　正和

17世紀から19世紀にかけての中国の都市社会史・文化史を研究しています。特に伝統中国の人々が持っていた価値観や心性、社会の中で生き抜こうとしたその試行錯誤の軌跡をたどることに関心があります。授業では中国や台湾で調査した清代の文書史料のほか、絵画や小説、演劇・芸能作品も幅広く取り上げます。様々な史料に触れて自分の常識がゆるんでいく驚きと、中国について考えていく楽しさを皆さんと共有できればと思っています。

MURAKAMI Masakazu

准教授　考古学

森　　貴教

専門は考古学で、朝鮮半島から日本海沿岸を主な対象地域として弥生時代とその並行期の研究をしています。稲作や鉄器の導入が当時の人々の暮らしや交流のあり方にどのような影響をもたらしたか、考察を深めています。最近ほ、弥生時代の終わり頃の高地性集落遺跡の発掘調査によって、『魏志』倭人伝に記された「倭国乱（わこくみだれる）」とは何かを追究しています。フィールドで、オリジナルな発見の喜びを伝えられたらと思います。

MORI Takanori

教授　韓国・朝鮮史

山内　民博

韓国の田舎をまわりながら、朝鮮王朝時代の社会について研究しています。授業では、古代の新羅・高句麗・百濟から現代の韓国・北朝鮮まで、家族や村落、国際関係など様々な面から朝鮮社会の歴史的な性格を追求していきます。古くから中国・日本と密接な交流関係をもちつつ、独自の世界を形成してきた朝鮮半島の歴史を学ぶことは、新たな視点から東アジアや日本について考える契機にもなることでしょう。

YAMAUCHI Tamihiro

准教授　民俗学・博物館学

山田　祐紀

民俗学の立場から、新潟県内の村落における土地慣行を研究しています。権利や義務、人びとの感情が複雑に絡み合う中で、なぜその慣行を実施してきたのか、あるいはその慣行が終焉したのはなぜなのかを、フィールドワークを基軸に文献史料も用いながら探っています。暮らしに根差した学問である民俗学を「いま・ここ」に生きる皆さんとともに展開していきたいと思っています。

YAMADA Yuki

言語文化学プログラム

Studies of Languages and Cultures

言語文化の学びが誘う多様性の世界

言語文化学の学習・研究領域は多岐にわたります。言語学は言語そのものの不思議を深く学び研究します。文学は文学作品を読みこみ作者の意図と作品の意味を探ります。文化学は文学以外の様々な文化現象を考察し理解を深めます。

【専攻できる分野】 日本語学・日本文学／中国語学・中国文学／朝鮮語・朝鮮文学
イギリス文学・文化／アメリカ文学・文化／英語学
ドイツ文学・文化／フランス文学・文化／ロシア文学・文化／言語学

言語文化学プログラムについて

日本、中国、朝鮮、イギリス、アメリカ、ドイツ、フランス、ロシアの言語・文学・文化を専門的に学び、高い言語運用能力を身につけるとともに、鋭い言語感覚と豊かな表現能力を養います。

言語分野では、言語表現の音声、形態、意味、構造、用法などの規則性・法則性の考察を進め、さらに、言語の歴史的変化や普遍性・個性性などの奥深さを理解します。そして、文学分野では、古代から現代まで生み出されてきた詩歌や劇、物語、小説などの文学作品を研究し、人間の優れた叡智に触れ、普遍的諸問題についての考察を深めます。また、文化分野では、芸術、歴史、社会の変動など、幅広い文化的事象に関して知識を拡げ、多角的な視野と分析的思考の陶冶をはかります。

本プログラムでは、異なる言語・文学・文化を横断的に探求し、総合的に把握することによって、多様な価値観が存在する国際社会の中で生きていくために必要な柔軟な思考力を伸ばし、協働的な行動力を身につけることができます。言語文化研究の専門性は、国語科および外国語科の教育、日本文化の世界への発信、外国の文化の翻訳や通訳など、国際社会で活躍する人材がますます求められる官公庁や民間企業で活躍するためにも活かしていくことができます。



教員からのメッセージ

文学はことばをつなげる

文学研究は、ことばのつながりを追うものです。作品の中に「宗助はそれを眼に見えない愛の精に、一種の確証となるべき形を与えた事実と、ひとり解釈して少なからず喜んだ。」(夏目漱石「門」十三)という一節が出てきたら、「愛」が主題だと考えて読み続けるでしょう。あるいは、「愛」が登場した箇所から振り返って、前の部分に関わる内容がないか読み直そうとするでしょう。文学作品は、ことばをつなぎ合わせて内容が組み立てられた建築物のようなものです。研究では、構造や語り手という概念を用いて、その連続する仕組みを分析します。また、ことばは、思想や風俗を映し出し、時代と共に変化するものです。同じ「愛」という言葉でも、時代によって内容は異なります。「じぶんとそれからたつたもひとつのたましひと 完全そして永久にどこまでもいつしよに行かうとする この変態を恋愛といふ そしてどこまでもその方向では決して求め得られないその恋愛の本質的な部分を むりにもごまかし求め得ようとする この傾向を性欲といふ」(宮澤賢治「小岩井農場」パート九)愛と欲を区別するのは作者の独創と思いますが、同じ時代の人々のものの見方も反映しています。作品は、同じ時代の読者に理解される必要があるため、同時代の思想をふまえるものです。研究は、作品が関わる同時代の思想を調べて、作品のことばの、今の私たちの考えに通じる面と異なる面

日本近現代文学
教授 長沼 光彦 NAGANUMA Mitsuhiko

を明らかにしながら、離れた時代のことばと私たちをつなげます。さらに、作品の中のことばのつながりを見出し、過去のことばを現代につなげるのは、私たち自身の読解です。他でもなく私たちが、ことばをつなげて作品世界を頭の中で創り上げ、それぞれの時代のことばの多様な意味を参照しながら、作品に表された思想を再現するのです。私たちの読解次第で、文学は豊かなものになるわけです。文学研究を通して、私たち自身が作品の価値を高める力を身につけるのです。



「漢文」ではない「中国文学」

中国文学＝漢文？ 地方の国立大学で中国文学を学ぶならどこも同じ？ いいえ、ちがいます。

大学では、語学か文学かという点に始まり、早い段階から専門分野の選択を迫られることは少なくありません。しかし、本学人文学部では、入学時に専攻が分かれておらず、1年間の猶予が与えられます。

1年生の間には専門科目はなく、中国語の基礎を学んだ上で、2年生以上で中国文学を外国語として受容し直す方法を学んだり、教科書にはない作品を精読してゆきます。高校以前の教科書で扱われている作品は日本語に翻訳されたごく一部にすぎませんが、翻訳の有無を超え、中国人にとっての中国文学とは何か、といった観点をもつところから始めます。

時代やジャンル別に研究室が分かれていないといった点でも他大学とは異なります。私は大学時代には日本文学分野に属しながら二専攻分を学び、この道に進みました。大学院では中国の古典・近現代文学をそれぞれ専門に学び、文学以外にも視野を広げ、清末を中心に研究してきました。「学問に境界なし」がスピリットです。王国維は中国では「国学大師」とも称され、国民的な教養として注目されていますが、日本では訳本が非常に少ないため未開拓であり、かつ他方面からのアプローチが可能なことから、研究心をかきたてられます。

中国文学
准教授 小島 明子 KOJIMA Akiko

昨今では国際化に伴い、本学でも外国語教育が重視され、留学も推奨されています。しかし、単にコミュニケーションスキルを習得し、海外渡航をしさえすればよいわけではありません。昨今のコロナ禍により国際交流の過剰による弊害も明らかになってきました。我々は、命懸けで海を渡った先人達の恩恵に与っていることを忘れてはならず、もし留学の機会が得られるならば、国内では決してできない何を学び、その経験をどのように活かすのか、明確な目的意識をもち、将来につなげることが肝要です。

専攻する学生は少ない分野ですが、専門の如何にかかわらず、伝統への敬意も含め、日本に最も近い隣国に関する十分な教養を備えた学生を送り出したいと考えています。



言語 ― 身近にひそむ未知

インターネットなどを用いて、まったく知らない言語の音声に耳を傾けてみてください。「意味」が分からないでしょう。この時に私たちは、言語とは、物理的には単に音声の連なりに過ぎないことを自覚するのです。話し手の発した音声聞き手の耳に入り意思が伝わる(時には聞き手の心を揺さぶる)こと、それ自体が不思議であり、客観的に捉えにくい現象なのです。

言語学が何をする学問なのか、一口に説明することは容易ではありません。言語学の究極の目標は、人間言語全般の解明、すなわち世界の諸言語の仕組みを明らかにすることであると言えます。世界には、6,000から8,000もの異なる言語が話されています。この中に含まれる話し手の数が少ない言語や、あるいは小さな方言なども、研究対象として、英語や中国語などの大言語と等しい価値を持っています。それぞれが独自の「仕組み」を有するからです。

私はこれまで、シベリアで話されているサハ語とトゥバ語の研究を続けてきました。サハ語の話者数は約45万人、トゥバ語の話者数は約28万人であり、新潟市の人口(約75万人)にも及びません。しかしこれらの言語もやはり独自の緻密な構造を備えており、さらには書記記録の無い時代の状態を知るための手掛りを内包しています。こうした「小さな」言語の仕組みを調べていると、今までは見えなかった日本語や韓国語などの「大きな」言語の構造が見えやすくなることがあります。ここに、異なる言語を比較対照すること

言語学・言語類型論
教授 江畑 冬生 EBATA Fuyuki

の意義があります。シベリアから東アジアまでを含めた諸言語について、その共通点と相違点を明らかにしたい。これが近年の私の目標です。

ここでサハのなぞなぞを1つ: Күнүс хайаҕасха киирэр, түүн хайаҕастан тахсар. 「昼はほら穴に入る、夜はほら穴から出る」、これは何でしょう(ヒント:日常的に存在します)。言語を学ぶと、時にはこれまで想像もしなかったような発想法や新たな価値観に出会うことがあります。それも醍醐味の1つです。



南シベリア・トゥバ共和国にて

外国語を学ぶことで見える世界

「人の生涯は草のよう。野の花のように咲く。風がその上に吹けば、消えうせ、生えていた所を知るものもなくなる」(旧約聖書・詩篇、新共同訳)。人間はいつか忘れられるという宿命に抗いつつ、絶えず言葉を紡いできました。私は大学時代に始めたロシア語をベースに、翻訳やロシア国外の居留地といった、国境を越える人の移動や営みに関心を持っています。

いまとは全く異なる時代に書かれた文献を読んでいて感じるのは、言葉というものの生命力の強さです。戦争の時代を生き、弾圧されて生涯を終えたソ連の風刺作家が書いた小説は、本人がこの世からいなくなってもなお人を笑わせます。来る日も来る日も砂漠を旅したロシア人旅行者が書いた日記の一節に、思わず共感させられることもあります。端正な文章の中に唐突にあらわれる奇妙な言葉から、昔の人の迷いや感覚まで伝わってくるときがあります。言葉とは、時代も国境も越え、人から人へとリレーされながら生き続けるもののようです。

人文学の面白さは、単に知識が増えることだけではなく。特に、ふだん使っているのとは異なる言語やその文化を学ぶと、人は、当たり前だと思っていたことが根本から問い直されるような経験をすることがあります。そのとき、大げさに聞こえるかも知れませんが、それ以前とは世界が少し変わって見えてきます。

ロシア文化
准教授 畔柳 千明 KUROYANAGI Chiaki

作家ウラジーミル・ナボコフの自伝『記憶よ、語れ』から、印象的な一節を引用します。「あの遠く離れた時代から発する長い光が実にさまざまな独創的方法で私のもとへ到達してくれたことに、感謝せずにはいられない」(若島正訳)。文献を通して、いま、ここではない世界から私たちのもとへ到達した“光”を見つけたときの喜びを、人文学部で味わっていただきたいと思います。

(写真は、パドリー『ロシア、モンゴル、中国』から、シベリアに住むクロテンと、17世紀頃ロシアで作られた美しく彩色された地図です)



日本文学作品を研究する魅力

皆さんは「日本文学」と聞いて何をイメージするでしょうか。夏目漱石の『ころ』、紫式部の『源氏物語』など具体的な作品名や、高校の国語の授業を思い浮かべる人もいるかもしれません。日本文学分野では、高校の授業よりもさらに深く作品を読み込み、登場人物の心情や物語構成、自然描写など様々な観点から考察を行います。私は現在『源氏物語』の研究をしており、平安時代と現代の文化の違いや、和歌によって紡がれる登場人物の思いを探ることに魅力を感じています。文学作品の解釈に正解はなく、多くの論文や周辺資料を調べる必要があり、考察は一筋縄ではいかないこともあります。しかし、その分多くの知識を得ることができ、作品全体の理解につながります。考察を通じて作品への理解を深め、登場人物の思いを探る、これこそが日本文学作品を研究する魅力だと思います。



半澤 和奏

日本文学 4年

「小さな違和感」に向き合うことが学びになる

「なぜ、この表現では違和感があるのだろうか？」

私は、様々な国や地域の言語を学んできた学生が集まり多角的に言語を追究できる言語学のゼミに魅力を感じ、3年次より人文学部に編入しました。実際に編入してからは、自分にはなかった考え方や鋭い指摘に日々刺激を受けています。当たり前に使われる言語表現の違和感に丁寧に向き合うことが、言語学という学問を深める初めの一歩です。言語学の探究テーマとなる種はどこにでも転がっています。電車やバスで見かけた広告、SNSで流行りの言葉、昨日見た外国映画の字幕…。「日本語ではこう表現するんだ」「じゃあ、他の言語では？」何気ない日常の中でふと浮かんだ疑問を、なぜ?と追究すること、日本語だけでなく他言語と比較し文化的背景も考察しながら考えを深めることがこの分野の面白いところだと思います。ぜひ皆さんも言語学を学んでみませんか?



齊藤 香帆

言語学 3年

言語文化学プログラムで学べること

人間言語のしくみを解明する / 語や文の組み立て方の法則性 / 日本の近現代文学と時代背景

『源氏物語』などの王朝物語の世界 / 日本の古典をくずし字で読み調査する技術 / 近現代日本語における音声・語彙・文法の姿
日本語の変化・変遷 / 中国語の歴史的変遷 / 中国近代以前の文学史と作品の読解 / 朝鮮半島および在日朝鮮人の言葉と文学
イギリス近代小説の読解と分析方法 / 英語の発音の規則性 / 英語と日本語の比較研究 / 英語で書かれた詩の読解

近現代ドイツの文化・思想 / フランス文学・芸術作品の解釈 / 近代フランス小説や詩の分析方法 / 近現代ロシアの文化・芸術

言葉を通して広がる、新しい世界との出会い

韓国が好きあなたへ。その「好き」をもっと深めてみませんか。高校時代、K-POPや韓国ドラマなどをきっかけに韓国に興味を持った人も多いかもしれません。では、韓国の文学作品を読んだことがある人はどれくらいいるでしょう。近年、日本でも韓国の小説やエッセイが人気を集めています。そのなかで、キム・スヒョン『私は私のままで生きることにした』(2016)の「あなたがいちばん尊重しなければならない人は常にあなた自身」という言葉が私の心に強く残っています。周囲と自分を比べて落ち込んだとき、自分に自信が持てなくなったとき、この言葉は何度も私の背中を押してくれました。韓国語で作品を読み解くことは決して簡単なことではありません。しかし、ひとつひとつの言葉に時間をかけて向き合うことで、翻訳では伝わりきらない言葉の美しさに出会うことができます。4年間、自分の「好き」と向き合える時間はとても貴重です。皆さんも自分が好きな国、文化や言語、歴史について学びを深めながら、これまで知らなかった新しい世界との出会いを楽しんでみてください!



小泉 結楓

朝鮮言語文化 4年

ロシア文化が導く、新しい自分

ロシアと聞いて、具体的なのを思い浮かべる人は多くないかもしれませんが。情勢の影響で、疎遠に感じてしまう人も多くいると思います。だからこそ今、ロシア言語文化に関心を持つことには大きな意味があるのではないのでしょうか。このプログラムでは、ロシア語だけでなく、文学や思想を通してその背景にある日本とは毛色が違う文化や複雑な歴史に深く触れることができます。私は当初「ロシア語で書かれた長文を講読したい」という思いでプログラムを選びました。しかし学びを続ける中で、ロシア人初のノーベル賞作家プーニンの作品を文体に着目しながら読んだり、ロシア語圏の芸術家の展覧会に足を運んだり、語学力だけではなく自分自身の視野の広がりや価値観の変化を実感しています。広大な国土が生んだ壮大さと、厳しい自然と激動の歴史から生まれた繊細さ。その両方が入り混じるロシアの世界を味わい尽くしましょう!



栗原 柚月

ロシア言語文化 4年

言語文化学プログラム 教員紹介

教授　古代日本語論

磯貝　淳一

ISOGAI Junichi

古代から近世に至る日本語の実態と変遷を「なま」の言語資料を用いて説明します。同じ「古典」でも、活字と古写本とでは知り得る情報に大きな違いがあります。読みやすさを手にする一方で、私たちは古典との断絶にも向き合っているのです。「なま」の資料の一字一字を辿ることは、過去の〈今・ここ〉、即ち音韻・表記・語彙・文法が当時の書き手達の「息づかい」と共にあった状況をリアルに追体験することにはかならないと私は考えています。

准教授　イギリス文学・イギリス文化 市橋　孝道 19世紀中頃に活躍したイギリスの文豪サッカレーとディケンズの作品を中心に、ヴィクトリア朝時代の文化全般についての研究も進めています。二人の作家は大英帝国の繁栄を様々な角度から描いており、類似点もあれば興味深い相違点も多く見受けられます。近代文明の基礎が築かれていく時代に創作された彼らの作品には、そうした社会や文化に対する人間の詳細な心理を読み取ることができ、現代の私たちにも通じる部分があります。

ICHIHASHI Takamichi

教授　言語学・言語類型論

江畑　冬生

EBATA Fuyuki

研究対象は言語です。言語は物ではないので、実際に手にとって調べるわけにはいきません。人間の言語活動を観察する必要があります。人間が意思を相手に伝える際、言語が手段になります。物理的には音声が用いられます。音声が対話者の耳に入り意味として理解されたときにはじめて、伝達が成立します。発した瞬間に消えてしまう音声と、客観的に捉える事が難しい意味。ある種つかみどころのない音声と意味を、なんと科学的に解明しようとするのが言語学です。言語は我々にとって身近すぎる存在ですが、ふだん意識されないその構造には驚くべき緻密さが見られるのです。

教授　英語学 大竹　芳夫 「ことばは文化の乗り物、心の鏡」であると言えます。英語ということばには英語話者の文化や発想が映し出されます。授業では、英語に特有の仕組みを観察しながら、英語話者の生き生きとした感覚や発想、異文化と自文化の価値の多様性、そして人間の心の働きとことばの仕組みの結びつきを探索します。また、応用言語学的見地から、言語理論と英語教育との接点についても考えます。最新の言語学や英語教育の研究成果を、わかりやすく、深く、面白く皆さんに伝えることを心がけています。
--

OTAKE Yoshio

准教授　英語学

北田　伸一

KITADA Shinichi

生成文法理論という理論的枠組みに基づいて統語論の研究をしています。具体的には、英語や日本語などの個別言語の間に観察される変異や、同じ英語であってもイギリス英語とアメリカ英語の間に変異が観察されますが、これらの変異がどのような仕組みによって生じているのかに興味をもって研究をしています。また、こうした言語間変異の仕組みから抽出される普遍的な言語一般の特性の解明にも関心を持って研究をしています。

准教授　ロシア文化 畔柳　千明 近世・近代ロシアを中心とする文化史が専門です。国家や地域の枠組みを逸脱して活動する人々に関心があり、近年は特に、中国・北京に存在したロシア人居留地の歴史を研究しています。ロシア文化にはドストエフスキーに代表される小説、思想、宗教など、ほかに無い物語が数多くあります。授業ではロシア文化に関するテキストを選んで精読することで、対象を認識し、それを物語として書きあらわす意義と一緒に学びたいと思っています。

准教授　中国文学 小島　明子 中国清末の文学と周辺の文化背景に興味をもち、特に王国維の詩・詞・文学論と『教育世界』という雑誌について研究しています。授業では中高では学ばない中国文学に着眼し、研究する上で基礎となる資料を、古典を中心に幅広く選定し、精読を行い、読解力を養う訓練を行っています。しかし、授業は一つのきっかけにすぎません。大学での学問はここから始まります。これを機にたくさんの作品に触れ、自ら世界を広げていってください。

准教授　日本中古文文学

高橋　早苗

TAKAHASHI Sanae

平安時代に創り出された『源氏物語』や『夜の寝覚』などを中心に、王朝物語の世界について日々考えています。「豪華絢爛」といった言葉が付与されがちな王朝物語ですが、その華やかなイメージとは裏腹に、多くの作品に「憂愁の思い」が深く織り込まれているところに心惹かれます。授業では、上記以外の作品も取り扱います。テキストの表現一つ一つを吟味したうえで、各人それぞれの「読み」を提示してもらいたいと思っています。

教授　フランス文学 津森　圭一 『失われた時を求めて』の作者として知られるマルセル・ブルーストの研究をしています。ブルーストが作品中で「風景」をどう描写しているかというテーマに取り組んでいるうちに、「風景」とはそもそも何か、という問題に関心が広がっていききました。授業では、「風景」を表現する手段である「文学」、「庭園」、「建築」、「絵画」、以上4つの領域をめぐって、皆さんと意見交換できることを期待しています。
--

TSUMORI Keiichi

教授　日本近現代文学

長沼　光彦

NAGANUMA Mitsuhiro

明治時代以降の日本近現代文学を対象として、同時代の思潮や風俗との関係进行研究しています。例えば、明治時代の夏目漱石「三四郎」を読むと、主人公の大学生生活は今と変わらないように思えます。一方で、その恋愛や世の中に対する考え方は、今と少し異なるようです。過去の文学には、現代に通じる面と、その時代特有の価値観を反映した面があります。共感しながらも、その時代特有の思潮や風俗を知ること、文学の読解をより深めることができます。

教授　英語教育の社会学 グレゴリー・ハドリー 21世紀のグローバル新自由主義の社会の中、学生をグローバル市場や企業の課題に対応させることが求められています。しかし、学生の知性を鋭くし、自分自身とは異なる人々や社会に対する見方を洗練させることのほうがより重要だと信じています。そのようなスキルを身につけた卒業生は地域社会と国際社会の両方に多大な貢献をしたいと思います。このような信念のもと教育研究を行っていますので、どうぞよろしく願いいたします。
--

Gregory HADLEY

准教授　ドイツ文学・比較文学

馬場　大介

BABA Daisuke

19世紀後半以降の日本とドイツ語圏における文学研究の交流について研究しています。最近では、明治時代の国文学研究におけるドイツ文学理論の受容に焦点を当てています。講義では、中世から第二次世界大戦後までのドイツ文学史を扱い、ゼミでは、ドイツ文学作品を原文で丹念に読んでいます。日独の文化・社会・歴史を広く比較しながら、文学とはどういうものかを、みなさんと一緒に学びたいと思います。

准教授　アメリカ文学 平野　幸彦 19世紀前半のアメリカの作家エドガー・アラン・ポーを中心に研究を進めています。また、英語教育における文学作品の活用法や翻訳論などにも関心があります。文学を始め、芸術を学ぶ意義は、異なる時空に生を享けた人々の想像力が生み出した偉大な作品から、21世紀の日本に生きる我々固有の問題や、人間存在に普遍的なテーマを考えるための手がかりを得ることにあると思います。皆さんも、この汲めども尽きせぬ叢智の泉を探ってみませんか。

HIRANO Yukihiro

准教授　朝鮮文学

藤石　貴代

FUJISHI Takayo

日本では漢字が「真名」であり、漢字を書き崩して「仮名」ができましたが、ハングルは漢字や仮名とは制字原理を異にする表音文字です。朝鮮王朝4代目の国王、世宗の時代に、建国叙事詩「龍飛御天歌」を作るなど試行を経て公布されました。高麗時代から科挙が行われた朝鮮では漢文こそが文章語でしたが、ハングルで詩歌が記録されるようになり、17世紀頃からハングル小説も登場します。辞書をひきひき一緒に解読してみませんか。

准教授　ドイツ語教育・ドイツ文化学・日本研究

アンニャ・ホップ

Anja HOPF

外国語としてのドイツ語教育 (DaF) の研究と実践を行なっています。コミュニケーションスキルズ(スピーキング、リスニング、ライティング)、長文読解、和独の翻訳はもちろん、CLIL (Content and Language Integrated Learning)の可能性にも興味を持っています。またドイツと日本の近現代における消費文化やアート、さらにはサブカルチャーを美術史/文化学的視点から考察しています。日本から見たドイツ、ドイツから見た日本のイメージの変遷にも関心を寄せています。ドイツ語の奥深さを学ぶことを通じて日独関係の意外な一面に触れてみませんか？

教授　フランス文学・思想 逸見　龍生 「光の世紀」と原語でいわれる新しい時代を求めたフランス18世紀の思想家たちの著作を主に研究しています。ゼミではフランス語文化のもつ魅力と奥行きを幅広くとらえます。フランス語をしっかりと身につけたうえで、作家のことばの一つ一つを正確に読み解いたり、歴史に散歩したり、芸術に結晶されたその美意識や感受性をあじわう。その世界は万華鏡のように多様で、深みがあります。フランス語圏の社会や文化の世界にわけいる楽しさ、ヨーロッパ、そして他の文明圏の伝統や現在と、精神的交流をする喜びを、ともに経験していきますよう。
--

HEMMI Tatsuo

准教授　中国語学

干野　真一

HOSHINO Shinichi

中国語学の授業を担当しています。口語語彙の変遷、特に前置詞に関心があり、歴代の文学作品などに見られる用例をもとに考察しています。中国語を学び初めのころは、徹底して音声を体にしみ込ませ、音に対する反応を磨きましよう。文法を学ぶ際は、日本語や英語など、他の言語との違いにも目を向けてみましょう。言語表現には、その言語の世界の切り取り方が反映されていますから、中国語的なものの見方に迫ることが、学ぶ楽しさ、多様な価値観の修得につながります。

准教授　現代日本語論 三ッ井　正孝 日本語（主に近現代語）を対象として、語彙や文法を中心に学んでいます。例えば、〈「壊す」には「壊れる」と、似た形の語があるのに、「食べる」にはない。これはなぜだろうか？〉〈「文法について勉強する」と「文法を勉強する」とは何か違いがあるのだろうか？〉〈明治や大正の文章には、私たちの使わない言い方があらわれる。現代に至るまでにどんな変化をしたのだろうか？〉そんなことを、日々、学生たちと考えています。
--

准教授　アジア文化 外国人教員 毎年、人文学部と交流協定のあるアジアのいろいろな大学の教員が、アジアの言語文化に関する講義や外国語の授業を担当しています。

人文学部所属教員

助教　人文社会情報学

山田　斗志希

YAMADA Toshiki

情報技術を活用し、言葉・創作・教育に関わる現象を研究しています。たとえば、テキストマイニングでキャラクターのセリフを分析し、キャラクターづくりに伴う価値観とそれを表す言葉の違いを明らかにしてきました。また、情報教育の実践と調査研究も進めています。「情報」を軸に、私たちの営みを一緒に探究してみませんか。

助手 永木　敦子 中国に留学に行く皆さんや、中国から人文学部に来る留学生の皆さんのお手伝いをしています。また人文学部合同資料室の雑誌や書籍などの管理も担当しています。資料について何かわからないことがありましたら、気軽にお尋ねください。

EIKI Atsuko

国際交流・大学間交流

開かれた知的ネットワークの住人になる

● 新潟大学が結んでいる大学間交流協定 ▲ 人文学部が結んでいる部局間交流協定 ■ 学生交換協定がある大学 *2025年5月31日現在

ドイツ

- ■ ダルムシュタット工科大学
- ビーレフェルト大学
- ▲ ■ ビーレフェルト大学
言語学・文学部及び歴史・哲学・神学部
- ■ マグデブルク・オットー
フォンゲーリック大学
- ▲ ■ ルール大学ボーフム東アジア学部
- ■ ミュンスター大学

フランス

- ■ ナント大学
- ▲ ■ リヨン高等師範学校
- ■ ボルドー大学
- ▲ ■ ジャン・ムーラン・リヨン第3大学

イギリス

- シェフィールド大学
- ブリストル大学
- ▲ ブリストル大学文学部

スペイン

- マドリッドコンプルテンセ大学
- ■ ナバール州立大学

トルコ

- ■ アンカラ大学
- ■ 中東工科大学
- ■ エーゲ大学

イタリア

- ■ ラクイラ大学
- ■ ミラノ大学

ポーランド

- ■ ウッジ大学
- コズミンスキー大学

クロアチア

- スプリット大学

オランダ

- ワーヘニンゲン大学

リトアニア

- ■ ヴィリニウス大学

ロシア

- ▲ 国立極東人文大学
- ■ サンクト・ペテルブルク大学
- ▲ 極東連邦総合大学東洋学院
- ■ 沿海地方国立農業アカデミー
- ■ 極東国立農業大学
- モスクワ国立大学
- 太平洋国立大学
- モスクワ国立第一医科大学
- ■ 極東連邦大学

インド

- コーチン科学技術大学
- ■ インド理科大学院大学
- ■ インド工科大学ルールキー校
- ■ インド宇宙科学技術大学

スリランカ

- ■ ペラデニア大学

タイ

- ■ コンケン大学
- ▲ ■ スリン地域総合大学
- ■ チェンマイ大学
- ■ タマサート大学
- ■ チュラロンコン大学
- ■ カセサート大学
- ■ モンクット王工科大学トンブリ校
- ナレースワン大学

フィリピン

- ■ アテネオ・デ・マニラ大学

インドネシア

- ウダヤナ大学

ベトナム

- ■ ハノイ工科大学

カンボジア

- ■ 王立プノンベン大学

ラオス

- ■ ラオス国立大学

中国

- ■ 華中科技大学
- ■ 華中師範大学
- ▲ 華中師範大学外国語学部
- ▲ 華東師範大学国際漢語文化学院
- ▲ 華東理工大学公共社会管理学院
- ▲ 吉林大学東北アジア研究院
- ■ 黒竜江大学
- ■ 湖南大学
- ■ 湖北大学
- ▲ ■ 首都師範大学歴史学院
- ■ 西安交通大学
- 清華大学
- ▲ 清華大学人文学院
- ▲ 清華大学人文学院歴史学部
- ■ 大連理工大学
- ■ 中央民族大学

モンゴル

- モンゴル医科学大学
- ■ モンゴル生命科学大学
- ■ モンゴル国立大学
- ■ モンゴル科学技術大学
- モンゴル教育大学

- ▲ 中国海洋大学文学院
- ▲ 中国人民大学国学院
- ■ 中国地質大学武漢校
- ■ 中国地質大学北京校
- ■ 中国農業大学
- ■ 天津外国語大学
- ■ 東北師範大学
- ■ 東北大学
- ハルビン医科大学
- ■ ハルビン工業大学
- ▲ ■ 復旦大学中国語学部
- ▲ 復旦大学歴史学部
- ■ 北京師範大学珠海分校
- 北京大学
- ▲ ■ 北京大学歴史学系

オーストラリア

- ■ シドニー工科大学

アジア太平洋地域

- ■ アジア太平洋大学交流機構

台湾

- ■ 義守大学
- ■ 国立中央大学
- 国立彰化師範大学
- 国立成功大学
- 国立台湾師範大学
- ■ 国立高雄師範大学
- ■ 国立高雄大学
- ■ 静宜大学
- ■ 中原大学
- ▲ ■ 長栄大学人文社会学院
- ■ 東呉大学
- ■ 南台科技大学
- ■ 文藻外語大学

韓国

- ▲ ■ 翰林大学校人文大学
- ▲ ■ ソウル大学校人文大学
- ■ 漢陽大学
- ■ 仁荷大学
- ▲ ■ 仁荷大学校文科大学

アメリカ

- イリノイ大学シカゴ校
- オレゴン大学
- ミネソタ大学
- カンザス州立大学
- ▲ ■ ニューヨーク州立大学フレドニア校
- ■ ロードアイランド大学
- ■ ロズウェルパーク癌研究所

カナダ

- アルバータ大学

国内の協定大学

単位互換協定

敬和学園大学人文学部
新潟国際情報大学
(国際学部、経営情報学部)

学部間協定

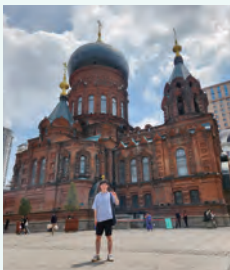
愛媛大学法文学部
岩手大学人文社会科学部

留学生の声

多くの出会いに 支えられた10か月

池田 勇大

アジア史 4年



私は、3年次の9月から約10か月間、中国・ハルビンにある黒竜江大学へ交換留学をしました。高校時代に世界史の授業で中国史に関心を持ち、大学では実際に現地へ行き、中国社会への理解を深めたいと思ったことがきっかけでした。授業では、他の留学生たちと一緒に中国語を学び、休日にはハルビンの観光名所である「中央大街」へ行ったり、長期休暇の際には長春や大連、北京にも足を運びました。また、後期からサッカーの活動にも参加しました。チームには留学生と他学部の学生がほぼ半数ずつおり、週末に試合をしたり、皆で食事へ行ったりすることも多く、クラスや学部を超えて多くのつながりができました。そして、街にはフードデリバリーのパイクが飛び回っている姿や、ハルビンの冬の寒さなど、実際に生活してみte気づいたことも多くありました。こうした経験は現在、自身の中国語の学習や専攻である中国史を学ぶ際などにも活かされていると感じています。

挑戦の先に見えた景色

ードイツ留学と出会いの中で

鈴木 歩

英米言語文化・副専攻ドイツ語 卒業生



みなさんは「ドイツ」と聞いて何を思い浮かべますか？ 私は4年の後期からボーフム大学で1年間の交換留学に挑戦しました。副専攻のドイツ語を深め、多様性を難民・移民の視点から学ぶためにドイツ留学を決断しました。費用や就活の不安もありましたが、様々な奨学金制度や「挑戦をしない後悔はしたくない」という私の中の強い思いが小さな背中を押してくれました。現地での生活は全てが新鮮で、スーパーの品揃えも、洗濯機のモード設定も、電車やバスの使い方も何もかもが異なります。パンやビール、ソーセージは驚くほどおいしく、クリスマスマーケットではその美しさに感動しました！ ヨーロッパでの生活を通して日々感じていたのは、「私たちは歴史の延長線上に生きている」ということでした。歴史的な街並みを歩くたびに、当時の人たちの生活に思いを馳せる瞬間がとてモワクワクしました。多様な出会いや経験に恵まれ、挑戦できたことに心から感謝しています。手厚い留学支援が魅力の新潟大学で、新たな自分の可能性に挑戦してみませんか？

新潟の桜

ソ・ヘヨン

韓国 翰林大学日本学科 4年



新潟に来てから、早くも二か月が経った。日本に来て、日本人だけでなくさまざまな国の人々と出会い、多くの経験をする事ができたことは、非常に意義深いことであると感じている。また、新潟大学の韓国語サークル「ブルゴギ」の日本人学生たちは、新潟の有名な場所や店を紹介してくれるなど、韓国人留学生を積極的にサポートしてくれた。そのおかげで、現地の文化にもよりスムーズに適応することができ、日本人学生と交流する機会を得ることもできた。さらに、新潟大学では交換留学生のための支援制度が充実している。日本で自転車に乗る際に必要な交通ルールに関する説明を受けることができるほか、住居契約も比較的円滑に進めることができる。また、外国人留学生のために在留カードや銀行口座の開設を行う機会が設けられており、大学の案内に従って安心して手続きを進めることができた。このような点から、外国人留学生への配慮が十分になされていると感じた。新潟大学の桜はきれいで国ボラ(国際ボランティアサークル)という新潟大学の外国人留学生向けサークルでお花見に一緒に行って、日本人と外国人たちと話しながら遊んで私の誕生日だったからみんなにお祝いを受けたいいい思い出がある。



公認心理師 社会の中で働く「心の専門家」の国家資格

公認心理師になるには、医療・福祉・教育・司法・産業などの領域で心理に関する支援や相談を行うための知識・技術を学びます。人文学部の心理学分野（※実習などの関係上、定員があります）で必要科目を修めて卒業したら、大学院で必要科目を修めて修了するか指定施設での実務経験を経ると、公認心理師試験を受験できます。新潟大学大学院は公認心理師に対応しています（臨床心理士にも対応）。

目の前の方の、こころのありように 思いをはせる



私が大学で心理学を学びたいと思ったのは、高校生向けの心理学の講義を受講したことがきっかけです。その面白さに触れ、学んだことを活かせる心理職を志しました。人文学部に進学してからは、心理学はもちろん、他分野の講義も様々受講しました。いずれも非常に興味深く、自分の世界が広がったような感覚がしました。卒業論文の執筆時には、先生方に丁寧な指導をいただきました。また、学生同士で励ましあう雰囲気があったことも、大きな心の支えでした。現在は、主に精神障害のある方の暮らしをサポートする仕事をしています。支援をするうえでは、その方のことを複合的に捉えることが大切です。悩むこともたくさんありますが、「この方の困りごととは何かな？ 強みは何かな？」と思いをはせる時、学生時代に培った物事を多角的に考える力が、今の自分の支えになっているなど感じています。ぜひ皆さんも、新潟大学で学問の面白さに触れてみてください。

仙台市精神保健福祉総合センター 安藤 郁美

学芸員 黒子のインフルエンサー

生涯学習機関である博物館で「集める」「守る」「調べる」「伝える」活動専門的に行う学芸員は、モノを通じて『知ること』のよろこびを伝えられる職業です。新潟大学で学芸員資格を取得し、活躍している先輩が何人もいます。挑戦あるのみ！

歴史民俗資料館の専門職員として



皆さんは日々の暮らしを営む中で、自分自身や周囲の人々が行っている行為にはどのような意味があるのだろうかと疑問に思うことはありませんか。幼少期から「死とは何か」という漠然とした疑問を抱いていた私は、大学に進学する頃には死そのものよりも、葬式や墓の建立、墓参りなど死者を葬り祀る行為とその意味に関心を抱くようになり、それが民俗学を専攻するきっかけとなりました。大学院修了後は仙台市歴史民俗資料館において、展示事業や資料の収集、調査研究、市民向け講座の講師など、さまざまな学芸業務に従事しています。新潟大学で民俗学を専攻したことによって得られた知識と経験を基礎とし、調査地を歩き回って行う観察と人々の語りから得られた地域の生活文化に関する知見を、展示や講座などをおとして市民に伝え、その面白さ、魅力に気付いてもらえたとき、民俗学をおとした社会貢献ができていることを感じます。

仙台市歴史民俗資料館 学芸員 渡邊 直登

可能性をひろげる 人文学部で取得できる資格

教員免許状 希望を育て、未来へ送る

生徒たちの成長に力を貸すことで、次の時代を共に作っていきける魅力ある仕事。近年、力のある教員を求める声が高まっています。中学校、高等学校（社会、地理歴史、公民、国語、英語、フランス語、ロシア語、中国語）の教諭一種免許が取得可能です。資格取得のために履修が必要となる単位は増えますが、その多くは卒業要件、専門の研究と関わるものとなっています。

人文学部での学びが生きる場所



より深い知識を得るとはどういうことでしょうか。机の上で長時間格闘することも時には大切ですが、原典に触れ、思いをめぐらせる経験こそが必要だと私は思います。大学での学びの価値も、実はそこにあるのではないかと思います。国語科でいえば、教科書に載っている文章を解説さえできれば、授業をすることはできてしまいます。しかし、それを生徒たちに実感を持った、リアルな学びとして経験させるには、その裏に何倍もの深い知識や経験が求められます。それを実現させるのが「原典に触れ、思いをめぐらせる経験」なのです。人文学部では、多くの分野において、原典や周辺資料を自力で読み進め、探究していきます。そんな人文学部での学びは自らの学習観を深化させ、さらには将来を担う生徒の学びに繋がっていくのです。

栃木県 下野市立石橋中学校教諭（国語科） 稲葉 諒

社会調査士 ヒト・モノ・コトを正しくつなぐ「社会調査の専門家」

商品販売から世論調査まで、さまざまな場面でアンケートやインタビューなどによる社会調査が行われるようになってきました。しかし、実際には現実を歪めるような調査も少なくありません。そこで、社会調査を正しく行い、調査結果を正しく解釈できる人材を認定する社会調査士資格が誕生しました。主に行政やコンサルタント、マスコミなど、社会調査に関わる職を目指す学生が挑戦しています。

置かれた場所で柔軟に楽しむ



私は就活時、家族に障がいを持つ弟がいたこともあり福祉業界を志望しました。現在は、東京都福祉に関わる方へ支援を行う職場で働いています。最初の配属は財務室で、今では電卓とにらめっこする毎日です。予想もしなかった部署でしたが、まずは社会人としての経験をつけることから始めています。そこでも、社会調査士の資格取得を通して得られた適応力が支えになっています。なかでも、社会調査実習や卒論執筆におけるインタビューの経験は大きな収穫でした。様々な方のお話を聴く中で見識が広がり、相手の立場に立つ意識も身に付いたと感じています。結果、どのような場所でも柔軟に人や集団と関わる適応力を得ることができました。今後は、さまざまな支援のあり方を検討する場面でも社会調査士のスキルを活かしていきたいです。社会調査士の資格は、就活時に武器となるのはもちろん、資格取得の過程で得られる経験は、どのような進路を選択しても必ず役立つことだと思います。社会調査士、取得してみませんか。

公益財団法人 東京都福祉保健財団 相田 ひな子

人文学部で取得・認定支援が受けられるその他の資格

●図書館司書 ●社会福祉主事任用資格 ●情報セキュリティマネジメント資格 ●各種語学検定 など

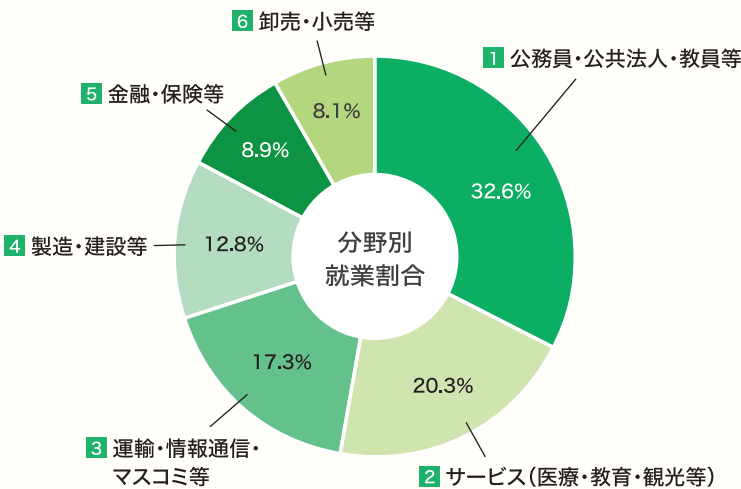
就職データ

就職状況(過去3年間)

■ 令和5年度卒業生 令和6年5月1日現在
就職率 **95.7** % (男96.2% 女95.4%)

■ 令和6年度卒業生 令和7年5月1日現在
就職率 **99.0** % (男98.9% 女99.1%)

■ 令和7年度卒業生 令和8年5月1日現在
就職率 **100.0** % (男100% 女100%)



近年の主な就職先

1 公務員・公共法人・教員等

- 国家公務員(総合職) ●国家公務員(一般職) ●都道府県庁 ●市役所 ●東京都特別区 ●町村役場
- 国立大学法人 ●独立行政法人 ●学校法人 ●農業協同組合 ●中高教員 ●学芸員 など

2 サービス(医療・教育・観光等)

- マイナビ ●ニッセイ情報テクノロジー ●HALEグループホールディングス ●イーオン ●旭化成ホームズ ●積水ハウス
- ヤマハミュージックジャパン ●エイチ・アイ・エス ●総合メディカル ●日本年金機構 など

3 運輸・情報通信・マスコミ等

- サイバーエージェント ●楽天 ●NTTデータ ●羽田旅客サービス ●日立社会情報サービス ●丸和運輸機関
- 富士通エフ・アイ・ピー・システムズ ●河北新報社 ●東日本旅客鉄道(JR東日本) ●エリクソン・ジャパン など

4 製造・建設等

- 本田技研工業 ●いすゞ自動車 ●東京電力ホールディングス ●東北電力 ●ヨネックス ●本間組 ●THK新潟
- 富士化学工業 ●朝日酒造 ●三井住友建設 など

5 金融・保険等

- かんぽ生命保険 ●三井住友信託銀行 ●第一生命保険 ●日本生命保険相互会社 ●明治安田生命保険相互会社
- 東京海上日動火災保険 ●こくみん共済Coop ●野村證券 ●秋田銀行 など

6 卸売・小売等

- アマゾンジャパン合同会社 ●ニトリホールディングス ●ヤマダホールディングス ●ジンスホールディングス ●クスリのアオキホールディングス
- ベイシア ●コメリ ●リコージャパン ●コニカミノルタジャパン ●アクシアルリテイリング ●トップカルチャー など

大学院進学者数

令和5年度卒業生19名 令和6年度卒業生14名 令和7年度卒業生10名

【進学先】

新潟大学／北海道大学／東京大学／筑波大学／金沢大学
大阪公立大学／九州大学／法政大学／中央大学

※より詳細な就職先については、
学部ウェブサイトをご覧ください。

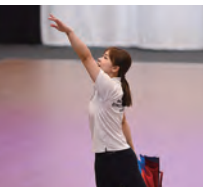


卒業生の声

18歳の私へ、10年後の私より

日本女子大学 助教

井上 咲子



18歳の私は、心理学を学んだ後に専門分野を変え、博士後期課程へ進学し、体操を教える大学教員となった10年後の私を想像もしていません。私は大学の部活動で競わない体操「Gymnastics for All」に出会ったことでその後の人生が大きく変わりました。不安は大きかったものの、「知りたい」「続けたい」という気持ちを信じて心が躍る方へ進んできました。その背中を押してくださったのが新潟大学の先生方です。私も好きなことを通して若者の可能性を広げられる存在になりたいと思い、大学教員の道を選びました。博士後期課程では、JSTのSPRINGや給付型奨学金の支援を受けながら研究を続けることができました。このように、新潟大学には学生の挑戦を支える環境や制度があります。高校生の皆さん、未来は今の想像よりずっと広いものです。自分のワクワクを信じて、可能性を広げてください。

社会の「なぜ?」を探る手法を学ぶ

毎日新聞社長崎支局 記者

添谷 尚希



地理学ゼミで、都市の成り立ちを「銭湯」を切り口に研究しました。社会で起こる出来事には、人の移動や生活様式、人間同士の相互作用が関係しています。4年生の時、戦前の横浜市の銭湯の立地を地図にしてみると、地区ごとに銭湯の密集度に差があると分かりました。背景を当時の資料から調べると、住民の所得階層や行政の規制緩和が関係していることが見えてきました。人文学部では、ある事象がなぜ起きたかを掘り下げる「考える手法」を学びました。私は2018年に卒業し、大学院や出版社を経て記者になりました。今は長崎支局で、事件や裁判を中心に、華僑や被爆者などを取材しています。仕事では、大学での学びがそのまま役立つことは少ないかもしれませんが、しかし、4年間で培った「考える手法」は、仕事のあらゆる面で基礎になっていると思います。

学びを日常に落とし込む

秋田魁新報社 記者

佐藤 千華



近現代の日本語について学ぶゼミに所属していました。ゼミの時間を通して、日常の中の言葉に敏感になったと感じています。例えば、スーパーで購入した商品の「ハサミを使用すれば開けやすくなります」という表記に対し、「ハサミを使用すると」の方が自然だと感じ、先生や友人に話したことがありました。一方が正しくて一方が間違っているという考え方ではなく、なぜ感じ方に違いが出るのかを考えることが大切だと学びました。卒業後は、秋田県の新聞社・秋田魁新報社で記者として働いています。新聞において言葉が担う役割は大きく、限られた字数の中での確かな言葉で情報を伝えなければなりません。日本語学の修学を経て、見過ごしてしまうような言葉の差異も意識できるようになりました。大学での学びが仕事へつながっていることを日々実感しています。

学びがくれた世界の見方

住友電装株式会社

趙 潔玲



私は芸術学を学び、趣味であった写真撮影について研究していました。卒業後は、自動車部品メーカーに就職し、まったく異なる分野で働いています。社会人になったばかりの頃、私自身も「大学で学んだことは今の仕事に関係あるのかな?」と思うことがありました。しかし、「学ぶ」というのは知識だけでなく、自分の考え方、経験、能力を育てる時間でもあると今では感じています。大学時代に身につけた発表の経験は、入社後にしっかり活かされたり、芸術学を学ぶ中で養った「客観的に見る力」と「自分の感性を大切にする力」は、仕事の中でも役立っています。大学での芸術学の学びは、私に「芸術」や「写真」そのものへの知識と愛着を深めてくれただけでなく、「自分なりの世界の見方」を与えてくれました。皆さんも、大学での学びを通して、自分だけの“世界を見つめる目”を見つけてください。

多様な視点を育む

国立大学法人新潟大学 図書館職員

久田 拓未



人文学部で西洋古代史を専攻し歴史学の面白さに魅了された私は、新潟大学大学院に進学し研究を深め、修士号を取得しました。現在は新潟大学附属図書館に勤務し学生や教員の調査・研究のお手伝いをしており、私生活では今も少しずつ研究を続けています。歴史学では時々、過去の事実を伝える資料(=史料)が新たに発見されたり、それまでの研究とは異なる視点から史料を見直したりすることで、正しいと思われていた説が一気に覆されるような事態が発生します。学生時代は、新発見はできなくとも、既存の史料たちと地道に向き合うことで、私も自分なりの解釈を組み立てようと奮闘していました。その中で得た「多様な視点から物事をとらえる力」は、社会に出た今も、何かで行き詰まったときに別の道を指し示してくれる大切なスキルになっています。

学びのつながり

建設資機材の専門商社勤務

折田 あずり



在学中はフランス言語文化学プログラムに所属していました。現在は建設資機材の専門商社に勤務し、顧客の要望に応じた製品の提案業務を行っています。大学での学びは、現在の仕事や新たな興味につながるきっかけになったと感じています。フランス文学を学ぶ中で触れた建築や芸術は、物事を多角的に捉える視点を養ってくれました。その視点は、現在の業務で顧客の要望に応じた提案を考える際にも役立っています。また、鋼構造や土木分野に関わるようになったことで、大学時代に興味を持った建築や文化への関心が広がり、海外の建築や土木技術の歴史にも興味を持つようになりました。フランスで生まれた土木技術が現在も活用されていることを知り、大学で学んだ文化や歴史との意外なつながりを感じています。人文学部での学びは、直接的な知識の習得だけではなく、新たな興味や視点を与えてくれるものだと思います。将来の目標が明確でなくても、大学での学びや出会いが思いがけない形で自分の世界を広げてくれるはずです。